

新型コロナウイルス禍の影響に関する 学生アンケート報告書（概要版）

2022（令和4）年9月

まえがき

令和2年3月に世界保健機関（WHO）によって新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックが宣言されてから、大学教育や学生生活は大きくその姿を変えました。学生は急激な日常生活の変化によって、経済面や精神面を中心に多様かつ甚大な影響を受けています。

こうした状況を踏まえ私大連では、新型コロナウイルス禍が学生へ与えた影響を把握するための学生アンケートを実施することとしました。令和3年12月から令和4年1月をアンケート実施期間とし、Web アンケートにて「新型コロナウイルス禍の影響に関する学生アンケート」を実施しました。このたび、同アンケート結果に基づき、『新型コロナウイルス禍の影響に関する学生アンケート報告書（概要版）』を作成いたしました。

アンケートの実施にあたっては、加盟大学のご協力を得て、121 大学 58,082 人の学部学生、大学院生から貴重な回答をいただくことができました。アンケートの基本設計については、新型コロナウイルス禍が学生のキャンパスライフに及ぼした影響を網羅的に把握することに留意し、「基本事項」「経済面への影響」「大学生活（正課教育・課外活動含む）への影響」「精神面への影響」の4つの側面に分けて質問を設定しました。

本概要版は、令和4年3月にとりまとめた『新型コロナウイルス禍の影響に関する学生アンケート集計報告書』のデータを基に分析を行い、各アンケート項目の結果から読み取れる傾向や特徴について、グラフ等を活用しながら「サマリー」「フォーカス」として取り上げるとともに、記述式での回答である「学生の声」とあわせて紹介しています。学生が国や大学に対する希望や要望を自由記述式で回答した内容については、テキストマイニング手法で分析して示しています。また、私大連で定期的実施している『第16回学生生活実態調査ⁱ』の調査結果なども紹介しながら、新型コロナウイルス禍前との学生の経済面、生活面、精神面の変化を検証しています。

新型コロナウイルス禍により学生を取り巻く環境は一変しました。大学には、学生が不安なく学業に向き合える環境を創出することが求められています。

私大連では、集計報告書及び本概要版を基に、私立大学において新型コロナウイルス感染拡大が学生に与えた影響とその現状における分析を広く公表し、私立大学に対する社会の理解を求めてまいります。

最後に、アンケートにご協力いただいた加盟大学の教職員ならびに学生諸君に改めて厚く御礼申し上げます。また、アンケートの実施や分析にかかわられたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

令和4年9月

学 生 委 員 会
担当理事 伊 藤 公 平
委員長 池 谷 知 明
学生委員会 小 委 員 会
座 長 下 楠 昌 哉

ⁱ 4年に1回実施しており、調査対象学部は、令和2年度に設置されている学部（令和3年度新設学部は除く）で、同設置学部在籍している学生（留学生含む）を調査対象としている。加盟大学への調査依頼数は、同設置学部の学部学生数（第16回調査では令和2年5月1日現在）の約5%の学生数を算出している（5%の学生数が20人以下の学部は、一定サンプル数を確保するため20人とする）。

目次

全体総括	3
サマリー・フォーカス	4
調査概要	17
基本事項（プロフィール）	18
1章 経済面への影響	19
2章 大学生活への影響	28
3章 精神面への影響	36
委員名簿	43
一般社団法人日本私立大学連盟加盟大学一覧	44

学生の
現状安心安全欲求の顕在化

- コロナウイルス禍での学生の悩み・不安は「就職・将来」が中心。
- 調査実施時（令和3年12月時点）では、大学へは、学費に関する説明を、国へは、大学生に対する経済的支援の見直しを求める声が多く見られた。
- 大学に対しては、授業形態の「適切な使い分け」も求められている。

コロナウイルス禍で学生に生じた変化は？

1

経済面

思うようにアルバイト
ができず、
令和2年度、3年度と
収入減少の状況が続く。

2

人間関係

友人と話せない、
課外活動に参加
できないなどにより、
人間関係が希薄に。

3

授業

オンライン授業への
改善要望は、
学び、受講方法、
健康への影響が中心。

総括

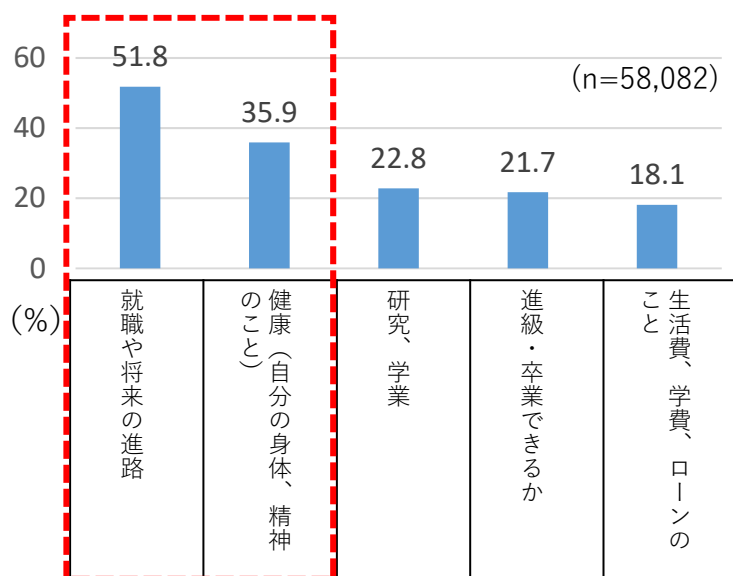
コロナウイルス禍で、学生を取り巻く環境は一変した。コロナウイルス禍による「アルバイトができず収入が減った」「友達に会えない」「オンライン授業に変わった」といった学生を取り巻く環境の変化が、「就職・将来」に対する悩み・不安を生み出している。

学生の不安を払しょくし、学業に向き合うことのできる環境をいかに創出できるか。大学生への経済的支援のあり方や、遠隔と対面の特性をふまえた授業形態の使い分けなど、柔軟な対応が求められている。

コロナウイルス禍で学生の悩み・不安は、就職や将来の進路が中心。

コロナウイルス禍の学生生活を経験して悩み、不安・心配に感じていることとして、「就職や将来の進路」が最も高く51.8%。「健康」が35.9%で続く。同設問の自由回答を見ても、将来や健康に対して、不安を感じている様子がうかがえる。

Q20 コロナウイルス禍の学生生活を経験して悩み、不安・心配に感じていること(3つまで)



※グラフ作成にあたり数値は小数点以下第二位を四捨五入（以下同じ）

学生の声

- **就職や将来の進路に関する不安**
 - ・ 家にいることが多く、自分の将来の事について深く考えすぎて引きこもることが多い。
 - ・ 就職のために自分はこのままでいいのだろうかという漠然とした不安感。
- **健康に関する不安**
 - ・ 大人数で集まり授業を受けることでコロナに感染しないか。
 - ・ コロナウイルス禍で対面授業を受講する際の学内もしくは通学中での感染リスク。

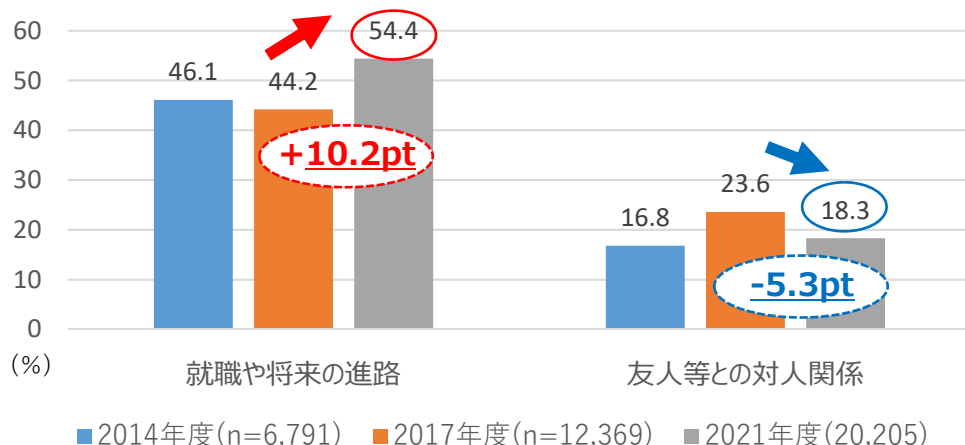
(Q20「その他」FAより抜粋)

PICK UP 「学生生活実態調査」から見るコロナ前と後の変化

コロナウイルス流行前と比較し、「就職や将来の進路」の悩みは上昇し、「友人等との対人関係」の悩みは低下。

【学生生活実態調査】第16回の結果から、「就職や将来の進路」へ不安をもっているという回答が、コロナウイルス感染拡大前の2017年度と比較して、10.2pt上昇していることがわかる。その一方で、「友人等との対人関係」への不安は、2017年度から、5.3pt減少。

【学生生活実態調査】第16回 「Q50いまのあなたの不安や悩み（2つまで）」



所属する学部・学問系統によって、 コロナウイルス禍の学生生活に抱く不安・心配は異なる。

【学問系統別の傾向】

コロナウイルス禍の学生生活を経験して悩み、不安・心配に感じていること

「就職や将来の進路」に関する悩みが中心

- 人文科学系、法律・政治・社会系、商・経済・経営系、教養系・総合系の学生は、「就職や将来の進路」への不安が最も高く、50%以上を占める。

Q20 コロナ禍の学生生活を経験して悩み、不安・心配に感じていること(3つまで) TOP 5

全体結果より
+5pt以上：赤字 -5pt以下：青字

人文科学系 (n=14,931)		法律・政治・社会系 (n=9,484)		商・経済・経営系 (n=9,958)		その他（教養系・総合系含む） (n=9,788)	
項目	%	項目	%	項目	%	項目	%
就職や将来の進路	56.3	就職や将来の進路	57.0	就職や将来の進路	54.7	就職や将来の進路	53.4
健康 (自分の身体、精神のこと)	39.2	健康 (自分の身体、精神のこと)	34.8	健康 (自分の身体、精神のこと)	33.7	健康 (自分の身体、精神のこと)	37.4
研究、学業	22.9	進級・卒業できるか (学位取得できるか)	22.5	進級・卒業できるか (学位取得できるか)	20.1	研究、学業	19.6
進級・卒業できるか (学位取得できるか)	21.1	研究、学業	20.9	生活費、学費、ローンのこと	19.9	進級・卒業できるか (学位取得できるか)	18.4
生活費、学費、ローンのこと	17.8	友人等との対人関係	18.9	友人等との対人関係	18.5	生活費、学費、ローンのこと	18.0

「就職や将来の進路」に関する悩み以外が比較的高い

- 理・工系、医・歯・薬・看護系、スポーツ・体育系の学生は、「就職や将来の進路」に関する悩みが上位にきているものの、他の学問系統の学生に比べると低い。
- 理・工系は「研究、学業」に関する不安、医・歯・薬・看護系は「進級・卒業」に関する不安、スポーツ・体育系は「生活費、学費、ローン」に関する不安が比較的高い傾向がある。

Q20 コロナ禍の学生生活を経験して悩み、不安・心配に感じていること(3つまで) TOP 5

全体結果より
+5pt以上：赤字 -5pt以下：青字

理・工系 (n=6,613)		医・歯・薬・看護系 (n=5,769)		スポーツ・体育系 (n=1,539)	
項目	%	項目	%	項目	%
就職や将来の進路	47.0	健康 (自分の身体、精神のこと)	34.8	就職や将来の進路	44.2
研究、学業	38.0	就職や将来の進路	31.0	健康 (自分の身体、精神のこと)	28.8
健康 (自分の身体、精神のこと)	33.8	進級・卒業できるか (学位取得できるか)	29.6	生活費、学費、ローンのこと	23.1
進級・卒業できるか (学位取得できるか)	24.1	研究、学業	24.5	研究、学業	15.9
生活費、学費、ローンのこと	16.9	生活費、学費、ローンのこと	17.2	進級・卒業できるか (学位取得できるか)	13.3

調査実施時（令和3年12月時点）は、大学に対しては「学費」についての説明、国に対しては大学生への経済的支援の見直しを求める声が多くあがっていた。

FOCUS①

「学費」「給付金」など経済的な支援に関する回答が多くあがる。
「学費」の説明は、現在に至るまでほとんどの大学で対応。

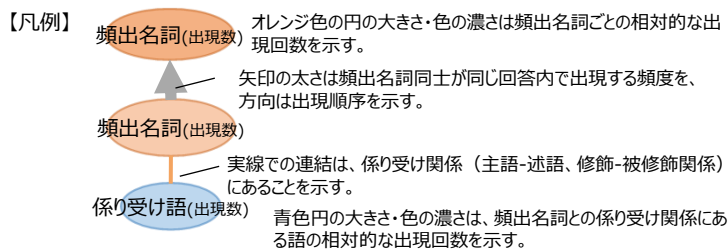
- ・ 頻出名詞では、「学費」が2番目に多く、11,276件の回答に出現。また、「給付金」「支援」「減額」といった名詞も3,800件～5,700件程度あり、経済的な支援を求める回答が多いことがわかる。
- ・ 頻出名詞同士の関係を見ると、「学費」は「減額」と同時に出現し、「減額」は「施設費」「設備費」と係り受け関係にあるため、施設・設備に関する学費の減額を求める声が多いことがうかがえる。
- ・ 「支援」という名詞は、「学生」「給付金」という語と関連が深く、学生を対象とした給付金による経済的な支援を求める声が多いことがわかる。
- ・ 実際の回答を見てみると、大学に対しては、学費が減額されないことに対する説明を求める声や、国に対しては、大学生への経済的支援の見直しを求める声が確認された。

頻出名詞 上位10件

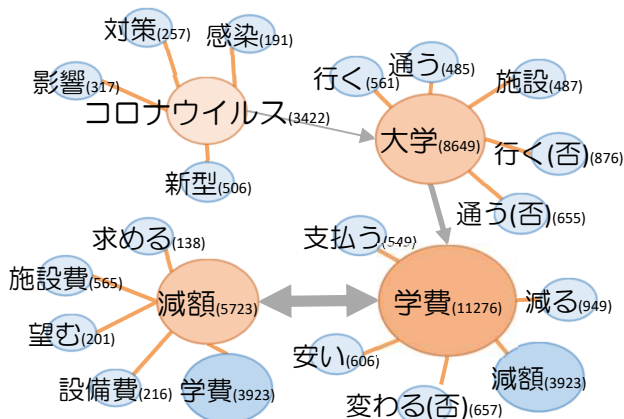
順位	単語	件数
1	授業	12,526
2	学費	11,276
3	オンライン	10,794
4	大学	8,649
5	学生	7,989
6	対面	6,112
7	減額	5,723
8	給付金	3,972
9	支援	3,833
10	コロナウイルス	3,422

・ 文章を単語や文節に分割し、頻出語を抽出。

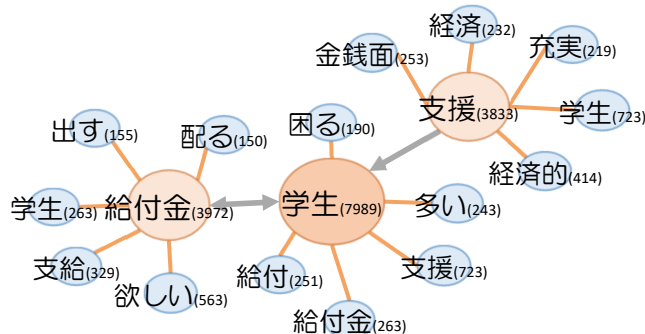
・ 「授業」と「講義」、「学費」と「授業料」など明らかな同義語をまとめた上で、各単語が出現する回答件数を集計し、回答件数上位10件の名詞を「頻出名詞」として表示。



「学費」に関する頻出単語の係り受け関係



「支援」に関する頻出単語の係り受け関係



学生の声

- ・ オンライン授業になり、学内施設の利用機会が激減したにも関わらず、学費が変わらなかったこと。維持費やオンライン授業を展開するための設備投資も必要だったと思うが、きちんと説明してほしい。
- ・ 親がリストラされ、兄も無職、自分自身もアルバイトの収入が無くなり金銭的に困っている。税金の使い方をもっとちゃんとして欲しい。経済的に厳しい世帯・学生に対する支援を充実化して欲しい。
- ・ 国からの金銭面での援助がもっと欲しかった。

(Q24より抜粋)

授業の形態に関する要望も多数あがり、 対面とオンラインの特性をふまえた上での対応が求められている。

FOCUS②

授業の形態に関する要望も全体として多くあがる。

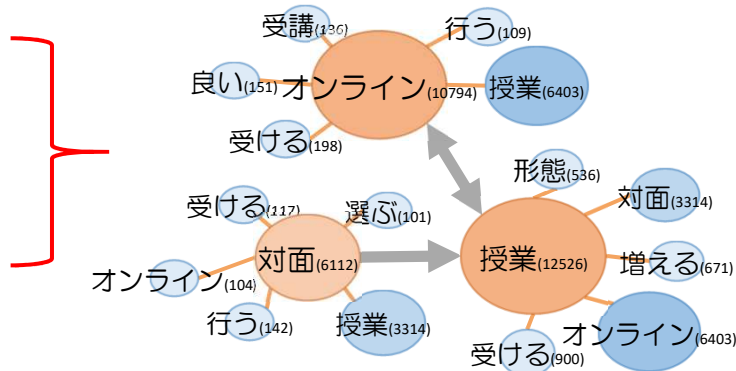
- ・ 頻出名詞では、「授業」が最も多く12,526件の回答に出現。「オンライン」「対面」も上位に入るなど、授業の形態に関する要望が全体として多くあがる。
- ・ 頻出名詞同士の関係や係り受け関係を見ると、「オンライン授業」と「対面授業」の語が頻出し、それらの授業が「増える」「良い」「選ぶ」の語にかかっており、オンライン授業の増加やその評価、対面授業との選択の可否に関しての要望が多いことがわかる。
- ・ 実際の回答を見てみると、「オンラインか対面か選べること」を望む声、「対面がいい」という声がある一方で、「オンライン授業」の「良さ」に気づいたからこそ、柔軟な対応を求める声が確認できる。

頻出名詞 上位10件

順位	単語	件数
1	授業	12,526
2	学費	11,276
3	オンライン	10,794
4	大学	8,649
5	学生	7,989
6	対面	6,112
7	減額	5,723
8	給付金	3,972
9	支援	3,833
10	コロナウイルス	3,422

- ・ 文章を単語や文節に分割し、頻出語を抽出。
- ・ 「授業」と「講義」、「学費」と「授業料」など明らかな同義語をまとめた上で、各単語が出現する回答件数を集計し、回答件数上位10件の名詞を「頻出名詞」として表示。

「授業」に関する頻出単語の係り受け関係



【凡例】
 頻出名詞(出現数) オレンジ色の円の大きさ・色の濃さは頻出名詞ごとの相対的な出現回数を示す。
 矢印の太さは頻出名詞同士が同じ回答内で出現する頻度を、方向は出現順序を示す。
 頻出名詞(出現数)
 係り受け語(出現数) 実線での連結は、係り受け関係（主語-述語、修飾-被修飾関係）にあることを示す。
 青色円の大きさ・色の濃さは、頻出名詞との係り受け関係にある語の相対的な出現回数を示す。

学生の声

- ・ コロナに対して考える事は人それぞれ違うので、対面授業・オンライン授業どちらでも可能(自分でどちらか選択)なようにして欲しい。
- ・ オンライン授業ではなく、対面授業にしてほしかったです。
- ・ 今対面授業を受けている中で、やはりオンライン授業にはオンライン授業の良さがあると思うとともに、対面授業が時々辛く感じます。どうかオンライン授業も使うなど、柔軟な環境で、学ばせて欲しいと強く思います。

(Q24より抜粋)

Q24「コロナウイルス禍の不自由な学生生活を経験し、国や大学に強く望むこと（自由記述）」については、 テキストマイニングにて分析を行った。

「分析の手順」

- ① 頻出語の抽出：文章を単語や文節に分割（形態素解析）し、頻出語を抽出。
- ② 構文解析・意味解析：抽出語の相関関係（共起関係、係り受け関係）を整理。
- ③ 「①」「②」の結果を集計・図示。

アルバイトが原因で令和2年度、3年度と収入減少の状況は続く。

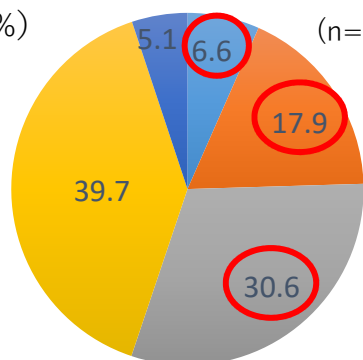
- 学部3年生以上の回答者のうち、コロナウイルス禍に突入した令和2年度、「収入が減少」したと回答したのは、55.2%。そのほとんどがアルバイト関係の理由である。（下記左図）
- 令和2年度に収入が減ったと回答した人のうち、令和3年度に「収入が増えた」と回答した人は、わずか10.2%。「収入がなくなった」「収入が大きく/やや減った」と回答した人はあわせて53.5%、「あまり変わらない」は36.2%と、収入減少の状況が継続していることがうかがえる。（下記右図）

学部3年生以上に絞って集計

Q8 昨年度（令和2年度）の収入変化

《令和元年度→令和2年度》

(%) (n=22,687)



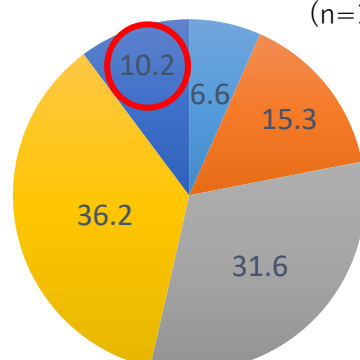
- 収入がなくなった
- 収入が大きく減った (50%未満になった)
- 収入がやや減った (50%~90%程度になった)
- あまり変わらない
- 増えた

収入が減った・計
55.2%

Q11 今年度（令和3年度）の収入変化

《令和2年度→令和3年度》

(%) (n=12,518)



- 収入がなくなった
- 収入が大きく減った (50%未満になった)
- 収入がやや減った (50%~90%程度になった)
- あまり変わらない
- 増えた

収入が減った・計 + あまり変わらない
89.8%

収入が減った・計
の回答者のみ

収入が減った理由

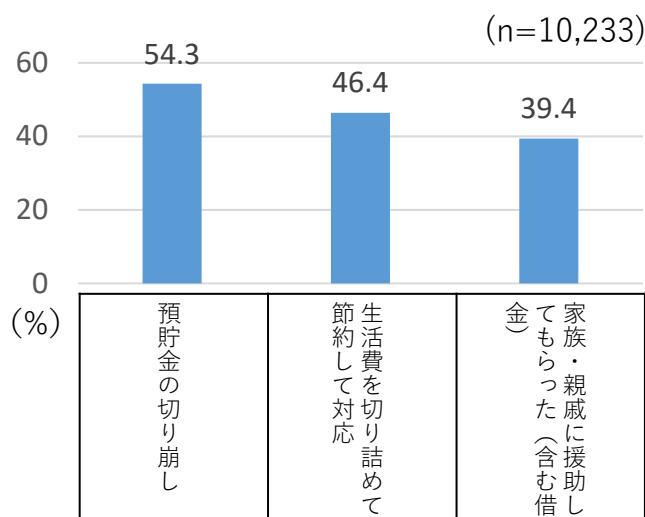
「アルバイトの日数・時間が減った」「アルバイトを解雇された」が主な理由。

コロナウイルス禍の収入減少により、 学生生活の「根底」が揺らいでいる人も。

収入が大きく減少（50%未満）した人のほとんどが、「預貯金の切り崩し」や「節約」など生活を制限することで、収入減を切り抜けている。その結果、学業へ向き合うことへ深刻な影響が出ている回答者も一定数いる様子。

コロナウイルス禍で収入が50%未満になった人（令和元年度→令和2年度）

「Q10 収入減の切り抜け方法（いくつでも）」よりTOP3を抜粋



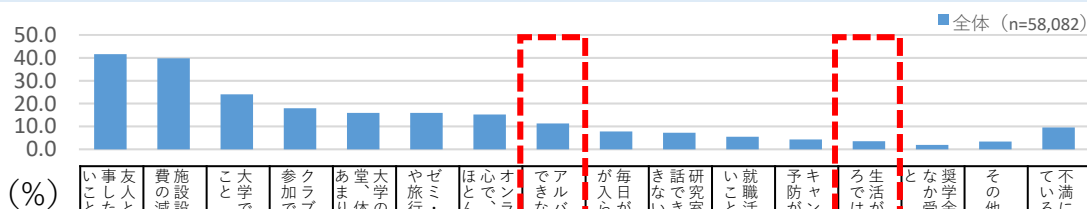
➤ どのようにして収入減を切り抜けたのか？（左図）

「預貯金の切り崩し」「生活費を切り詰めて節約」が上位にあがる。収入減が生活水準へ影響を及ぼしていることが懸念される。

Q14 コロナウイルス禍の大学生生活で不満に感じている（困っている）こと(3つまで)

➤ 学生生活への影響はどのように出ているのか？（下図）

全体に比べ、学生生活での不満として、「アルバイトができない」が全体と比べ高いほか、「生活が苦しく、勉強どころではない」と回答した人が10%程度おり、収入減により、学生生活の「根底」が揺らいでいる人が一定数いることがうかがえる。



収入減の切り抜け方法	割合 (%)	収入減の切り抜け方法	割合 (%)	収入減の切り抜け方法	割合 (%)	収入減の切り抜け方法	割合 (%)	収入減の切り抜け方法	割合 (%)	収入減の切り抜け方法	割合 (%)	収入減の切り抜け方法	割合 (%)	収入減の切り抜け方法	割合 (%)	収入減の切り抜け方法	割合 (%)
全体 (n=58,082)	41.6	施設設備費・拡充費や学費の減額がないこと	39.8	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	24.0	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	17.9	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	15.9	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	15.9	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	15.2	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	11.3	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	7.8
一昨年度と昨年度の毎月の収入の変化	38.5	施設設備費・拡充費や学費の減額がないこと	44.0	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	21.3	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	15.6	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	17.5	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	12.3	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	16.6	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	23.7	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	12.2
昨年度と今年度の毎月の収入の変化	36.4	施設設備費・拡充費や学費の減額がないこと	41.9	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	22.8	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	15.3	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	17.6	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	10.1	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	16.2	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	25.3	大学の施設（図書館、体育館、ジム等）があまり使えないこと	12.7

精神面への影響も懸念される。

収入が大きく減少（50%未満）した人の特徴として「課外活動」への参加率が低いことがあげられる。また、特に経済的被害の大きい学生の場合、誰にも会えない中で、一人で思い詰めてしまう傾向もうかがえる。

コロナウイルス禍で収入が50%未満になった人（令和元年度→令和2年度）

➤ 課外活動への参加ができていない人が多い傾向。

収入が50%未満になった人のうち、60%以上が課外活動へ「参加していない」と回答しており、全体と比べ5pt高い。さらに、課外活動へ参加していても、「ほぼ活動ができなかった」と回答した人が40%弱おり、全体と比べ、10pt以上高い。

Q16 課外活動の参加状況（1つだけ）

	参加している	参加していない
全体	43.5%	56.5%
収入50%未満	38.5%	61.5%

全体：n=58,082
収入50%未満：n=10,233

Q17. 令和2～3年度における課外活動の実施について、新型コロナウイルス感染拡大前からの変化（Q16で「参加している」回答者のみ）（1つだけ）

全体：n=25,294
収入50%未満：n=3,940

	ほぼ活動ができなかった	減った (大きく+やや)	あまり変わらない
全体	28.0%	44.8%	8.1%
収入50%未満	38.7%	44.8%	7.4%

➤ 一部、精神や生活に深刻な影響が出ている回答者も。

「Q20 コロナウイルス禍の学生生活を経験して悩み、不安・心配に感じていること」の自由回答を確認すると、特に経済的被害の大きい学生の場合、制限される生活の中で、精神的に追い詰められてしまっている様子がうかがえる。

学生の声

（Q20「その他」FAより抜粋）

- ・ 仲の良い人とは話すが、それ以外の人との関係が希薄になった。人間関係が狭くなった。
- ・ 友達や恋人と会えず、楽しいことがない。
- ・ 生きることの不安、恋人とも友人とも話せない不安、コロナも何もかも全てが不安だった。

収入が50%以上減少した人のうち、 国や大学から「支援を受けた」と回答した人は6割弱。

収入が大きく減少（50%未満）した人のうち、国や大学から何らかの支援を受けた人57.5%。また、支援を希望しなかった人（「必要なかった」「必要だったが、実際に相談・申請するには至らなかった」の計）は19.2%。必要だったが、支援を受けられなかった人は20.7%。

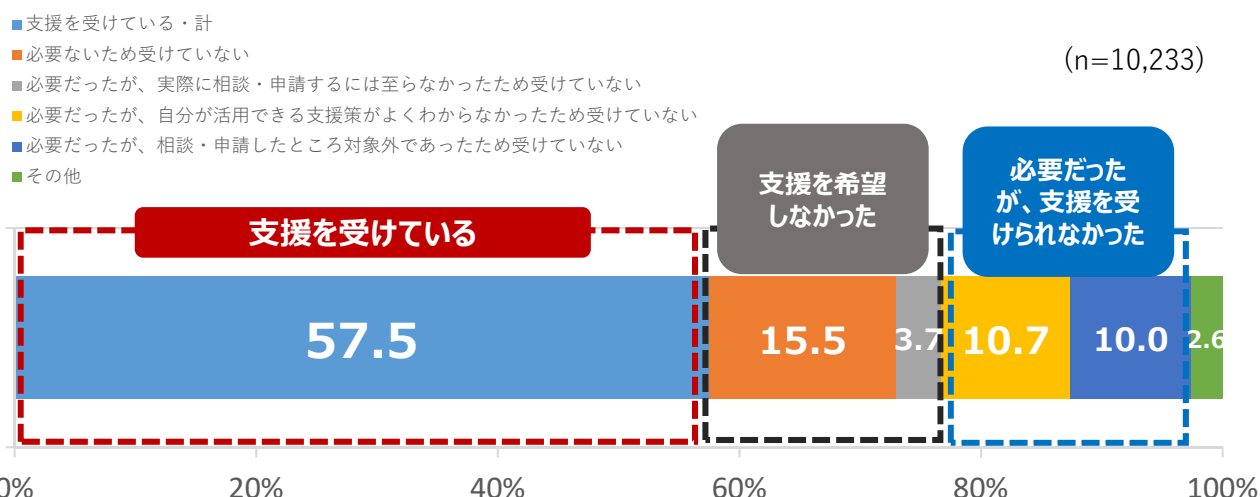
受けた支援の内訳は、日本学生支援機構の貸与型奨学金が最も多く47.8%。「大学による独自の支援」（29.0%）や「『学びの継続』のための学生支援緊急給付金」（26.6%）が続く。

コロナウイルス禍で収入が50%未満になった人（令和元年度→令和2年度）

国や大学からの支援の受給状況

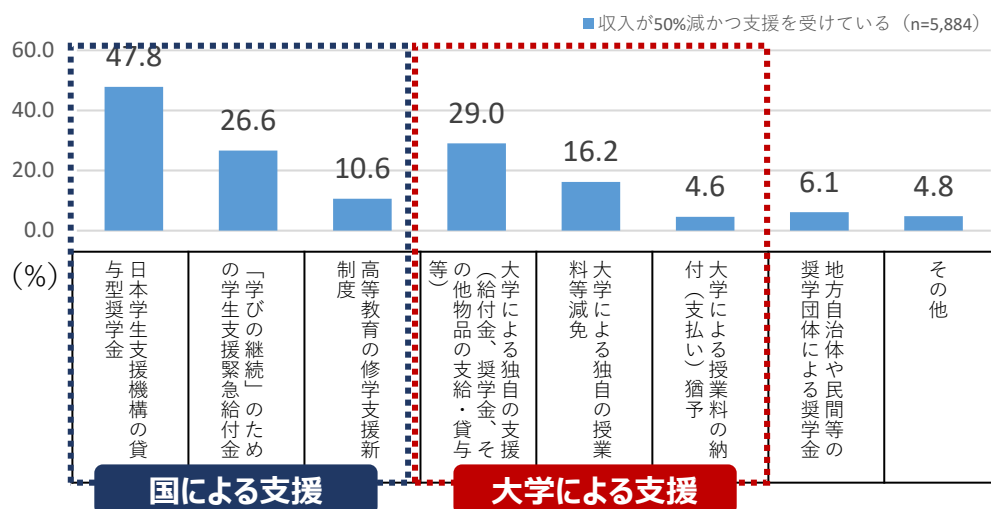
Q6 昨年度（令和2年度）から今年度（令和3年度）にかけて国や大学等による以下の支援を受けましたか。（複数選択可）

Q7 前問で「受けていない（受けたことはない）」と答えた方に伺います。受けていない理由は何ですか。（1つだけ）



受けた支援の種類（「支援を受けている」のみ）

Q6 昨年度（令和2年度）から今年度（令和3年度）にかけて国や大学等による以下の支援を受けましたか。（複数選択可）

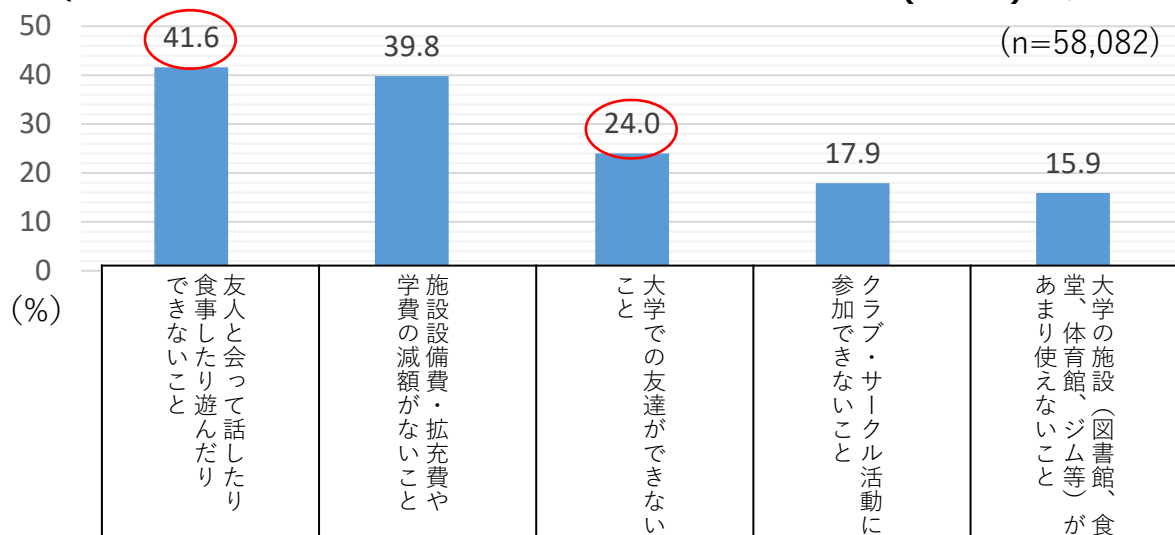


課外活動へ参加ができず友人と会えない状況が続く。

学生生活の不満点は、「友人と会えない」という回答が中心。

「友人と会って話したり食事したり遊んだりできないこと」が最も高く、41.6%。「大学での友達ができないこと」も24.0%で3番目に高い。

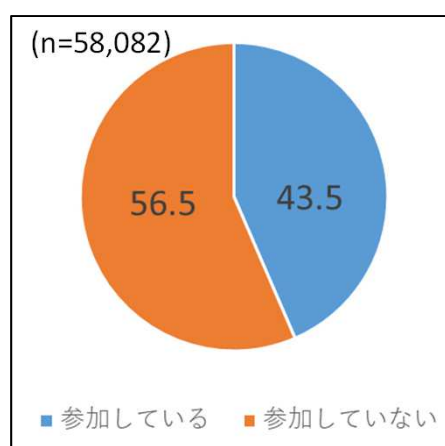
「Q14 コロナウイルス禍の大学生活で不満に感じている（困っている）こと(3つまで)」よりTOP 5を抜粋



課外活動の参加状況はコロナウイルス禍以前と比べ、大きく低下。

課外活動に「参加している」との回答は43.5%。また、課外活動へ参加していても72.8%の人がコロナウイルス禍以前と比較し、活動量が低下したと回答している。

Q16 課外活動の参加状況（1つだけ）



Q17 コロナウイルス禍以前と比較した課外活動量の変化（1つだけ）

課外活動量の変化 (n=25,294)	
ほぼ活動ができなかった (10%未満になった)	28.0%
大きく減った (10%～50%未満になった)	26.5%
やや減った (50%～90%程度になった)	18.3%
あまり変わらない	8.1%
増えた	1.8%
わからない	17.4%

72.8%

課外活動参加状況（学年別）

学部1年生	50.6%
学部2年生	44.1%
学部3年生	47.2%
学部4年生	39.7%

1年生で回復か？

学年別の課外活動への参加状況を見ると、学部1年生が50.6%と最も高く、2年生が44.1%であるのに対して、5pt以上高い結果に。

誰とも会えないことが精神面へ影響を及ぼしている。

Q20で「健康」に関して悩み・心配があると回答した人は、「友人と会って話したり食事したり遊んだりできないこと」に特に不満を抱えている傾向がある。

- 「友人と会って話したり食事したり遊んだりできないこと」への不満と、「健康」に関する悩み・心配との関係。

Q14大学生活の不満点で
「友人と会って話したり食事したり遊んだりできないこと」と回答

回答者全体
(n=58,082)

41.6%

Q20で「健康」に関して、悩み・心配があると回答
(n=20,858)

47.6%

自由回答からは、誰にも会えないことで精神面へ影響が出ている様子や、健康への影響を考えるあまり、人と会うのが苦痛になっている様子がうかがえる。

学生の声

➤ 誰とも会えないことで精神面に影響が出ている。

- ・ 友達に会えないことがこんなにつらいなんて思いませんでした。
- ・ 一人で長期間家にいることが精神的に辛かった。
- ・ 人と会う機会が減り、気持ちの浮き沈みが激しくなったり、人前で話すことが怖くなったりした。

➤ 健康への影響を考え、人と会うのが苦痛になった。

- ・ 相手との物理的距離間を気にするようになってしまった。
- ・ 私の大学はコロナに対して不衛生で無神経な人が多いので本当にストレス。
- ・ 感染症対策をしていない・不十分な学生と学内ですれ違うことへの不安や恐怖。

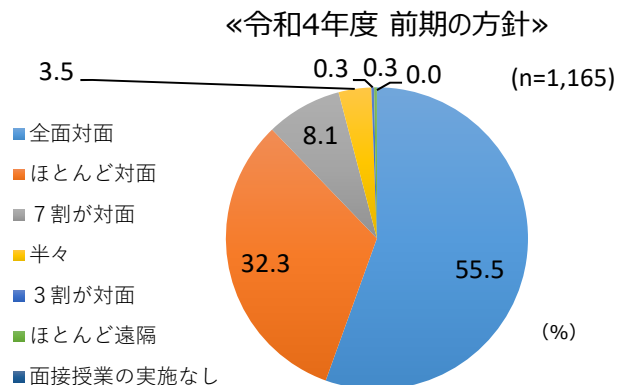
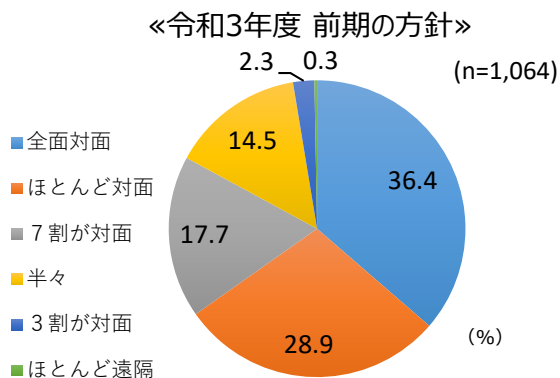
(Q14およびQ20「その他」FAより抜粋)

オンライン授業への改善要望は、学び、受講方法、健康への影響が中心。

授業方法

令和3年度前期の時点では、63.6%の大学が対面と遠隔授業を併用。令和4年度に入り、全面对面の大学が増えるも、44.5%の大学では併用を継続。

対面・遠隔授業の実施方針



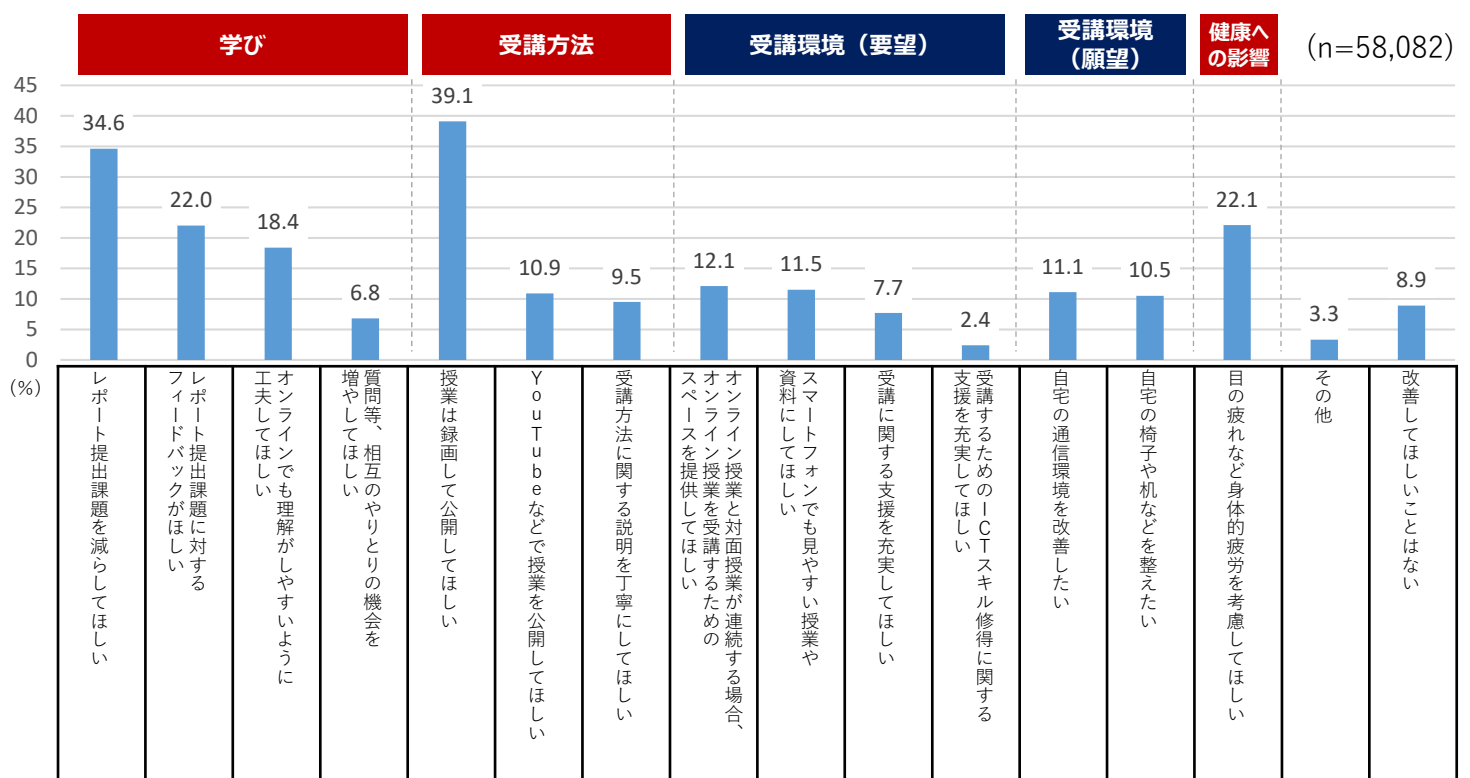
出典：文部科学省「令和3年度前期の大学等における授業の実施方針等について」
https://www.mext.go.jp/content/20210702-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf

出典：文部科学省「令和4年度前期の大学等における授業の実施方針等について」
https://www.mext.go.jp/content/20220603-mxt_kouhou01-000004520_02.pdf

オンライン授業への改善要望

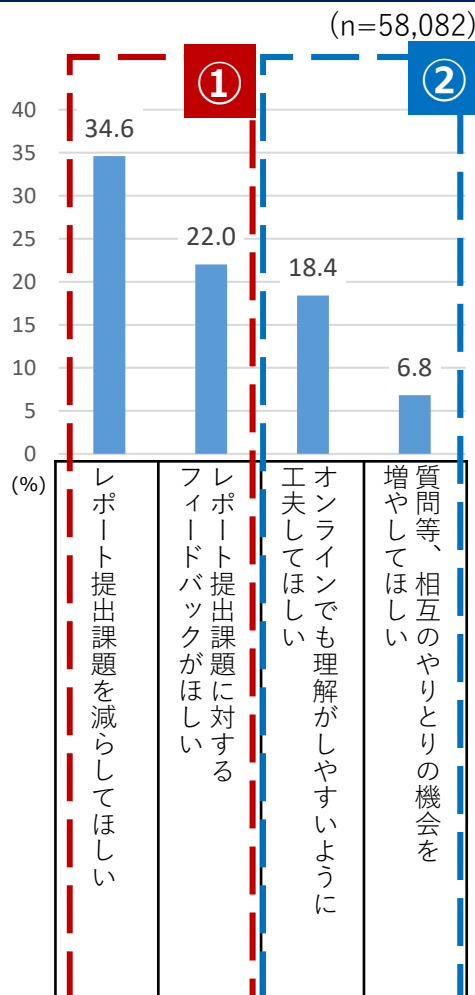
オンライン授業受講に関する改善要望は、「学び」「受講方法」「健康への影響」への回答が多く集まった。

Q15 オンライン授業受講に関する改善要望（3つまで）



学生が適切に学びに向き合うために、授業はどうあるべきか。

オンライン授業と学生の学び



① 「レポート地獄」？ 学生が勉強するようになった？

オンライン授業への改善要望のうち、学生の学びに関する回答としては、「レポート提出課題を減らしてほしい」という回答が34.6%と高く、レポート課題の負担が増えていると感じる学生が多い。

実際に、学生生活実態調査の結果を見ても、コロナウイルス感染拡大前と後で学生の1日あたりの平均的な自習時間は、0.72時間増加。ただし、2017年度の自宅学習時間が1日平均1時間未満であったことをふまえ、「学生の負担が増えた」ととらえるべきか、学生が勉強に向かう環境ができたかととらえるべきか、慎重に見る必要がある。

平均的な1日あたりの自宅での自習時間（単位：時間）

2017年度 (n=12,369)		2021年度 (n=20,205)
0.76	▶▶▶ +0.72時間	1.48

【学生生活実態調査】第16回「Q24-⑧あなたの平均的な1日あたりの【自宅での学習時間】」

② 資料配布型の授業への改善要望が多く集まる一方、オンラインによって機会が減少したと思われる「相互間のやりとり」を求める声は少ない。

オンライン授業に対する「わかりやすさ」について、学生が理解するための工夫がされていないことを指摘する声が見られた。「相互間のやりとり」を求める声が少ないことについて、すでに機会があるからなのか、オンライン授業にそこまで求めるに至っていないのか、慎重に見る必要がある。

学生の声

- 資料を配るだけの講義などがあり、十分な知識を獲得できない。
- 授業がPDFのみ配布は改善するべき。せめて動画を配信するべき。
- 簡単な配布資料のみで、音声や動画を一切配信しない講義もあり不満に思う。

受講方法へのニーズは多様化。
オンラインになったからこそそのメリットをふまえた上で、方向性を検討することが重要。

Q15の自由回答の内容を見ると、オフライン、オンラインのどちらか一方を希望する声や、併用を希望する声があり、ニーズが多様化していることがうかがえる。

Q15「その他」の内容

内容分類	人数	割合 (%)
(1) 学費・授業料・施設費・教材費などの負担を見直してほしい	235	18.0
(2) オンライン授業と、オフライン授業が混在しているのでどちらかに統一してほしい	148	11.3
(3) 教員のオンライン授業に関する I C T スキル、通信環境・設備を改善してほしい	142	10.9
(4) できるだけオンライン授業を実施してほしい	142	10.9
(5) オンライン授業と、オフライン授業をどちらか選択できるようにしてほしい	89	6.8
(6) 学内の通信環境・設備を充実させてほしい	99	7.6
(7) できるだけオフライン授業を実施してほしい	75	5.7
(8) オンライン授業は受講していない	4	0.3
(9) その他	374	28.6

自由回答を確認すると、オンライン授業になったからこそ得られたメリットを活かすべきという声と、オンライン授業になったからこそ困っている点を指摘する声が両方見られた。

学生の声

オンライン授業になったことによる ＜メリット＞を活かすべき

- **オンライン授業の方が時間を有効に使えて合理的である。**
 - ・ オンラインの方が合理的な科目も多い印象だったので、コロナ関係なくオンライン科目の設定も良いと思う。
 - ・ オンライン授業をより積極的に活用すべき。通学しない分、研究に充てられる時間が増える。
- **体調などの理由で対面授業が困難な人にも適している。**
 - ・ 体調が理由で対面受講が困難な場合のためにオンライン授業を継続してほしい。

オンライン授業になって生じた ＜デメリット＞を指摘

- **オンライン授業だと学習意欲が低下する。**
 - ・ オンラインでは学生や教師との対話の機会がなく、学ぶ意欲が湧かないのでオンライン授業をなくしてほしい。
 - ・ オンラインだとやる気が起きないため対面で実施して貰いたい。
- **一方的な授業が多く、質の低下を感じている。**
 - ・ 資料を見ての課題ばかりで、授業を受けてる感じがなく、質が悪く感じた。
 - ・ 資料を公開し、レポートを求めるだけの一方的で投げやりな講義があることに疑問を抱く。
- **精神的、肉体的な疲労がたまる。**
 - ・ そもそもオンライン授業を廃止して欲しい。家にずっといることにもなり、目も疲れて健康にも悪い。

調査概要

1. 調査の目的

「新型コロナウイルス禍の影響に関する学生アンケート」（以下、本調査）は、今般のコロナウイルス禍がもたらした学生のキャンパスライフへの影響の実態を調査し、大学の学生支援方策立案の参考に供するとともに、国の学生支援施策充実の要請をするためのエビデンスデータとすることを目的として実施した。

2. 調査の対象

本調査の対象は、私大連に加盟している大学の全学部生・大学院生とする。

（参考）：令和3年度学生数（私大連加盟124大学）

（私大連『令和3年度学生・教職員数等調査報告書』より）

・学部学生（昼・夜間部計）：913,214人

・大学院生（昼・夜間部計）：46,879人

3. 調査方法

本調査は、以下の方法によるWeb調査によって実施した。

①各加盟大学へ大学ごとに設定した回答入力画面のURL、QRコードをお知らせする。

②各大学において、ウェブサイト、ポータルサイト等を利用して学部学生・大学院生に上記①のURL、QRコード等をお知らせする。

③学部学生・大学院生は、回答期限までにスマートフォン、タブレット、PC等から回答する。

4. 調査の基本設計・調査項目

1) 調査の基本設計について

本調査の基本設計に当たっては次の点に留意した。

- 今般の新型コロナウイルス禍が学生（学部学生・大学院生）のキャンパスライフにどのような影響を及ぼしたのかを網羅的に把握する。
- 調査項目によっては、「その他」と回答した場合、記述式での回答を求め、より具体的に、また、よりの確に内容が把握できるようにする。
- テキストマイニングによる分析をすることを前提に、国や大学への要望を記入してもらう自由記述式の設問を設け、学生の生の声を把握できるようにする。
- 私大連で実施している『学生生活実態調査』や各大学・関連団体で実施している新型コロナウイルス禍の学生への影響に関する調査等と比較可能な構成とする。

2) 調査項目について

上記の基本設計に基づき検討し、「Ⅰ．基本事項」「Ⅱ．経済面への影響」「Ⅲ．大学生活（正課教育・課外活動含む）への影響」「Ⅳ．精神面への影響」の4つの側面と「その他（記述式）」に分けて調査項目を設定した。

5. 調査の実施時期

調査実施期間：令和3（2021）年12月3日～令和4（2022）年1月23日

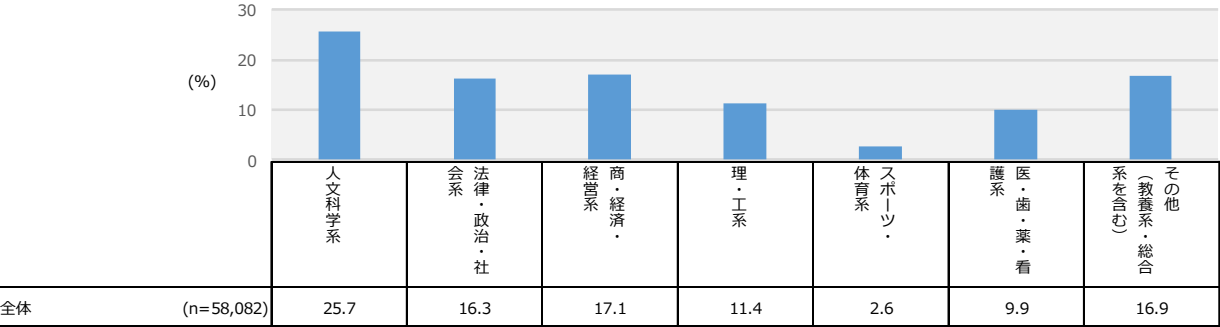
6. 回答回収結果

- | | |
|------------|---------|
| 1) 調査対象大学数 | 124大学 |
| 2) 回答大学数 | 121大学 |
| 3) 有効回答数 | 58,082人 |

基本事項（プロフィール）

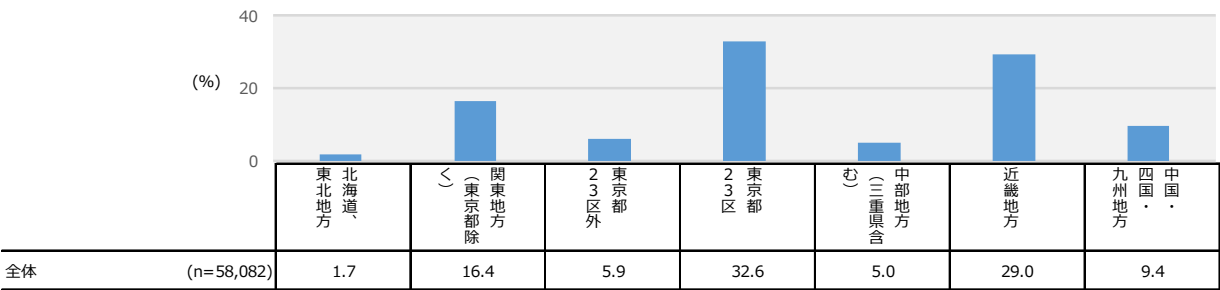
■ 学問系統

Q1 あなたの所属する学部・研究科はどの学問分野ですか。（1つだけ）



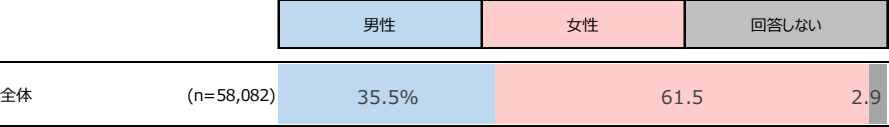
■ キャンパスの所在地

Q2 あなたが現在通っている（通うはずの）主なキャンパスの所在地を選んでください。（1つだけ）



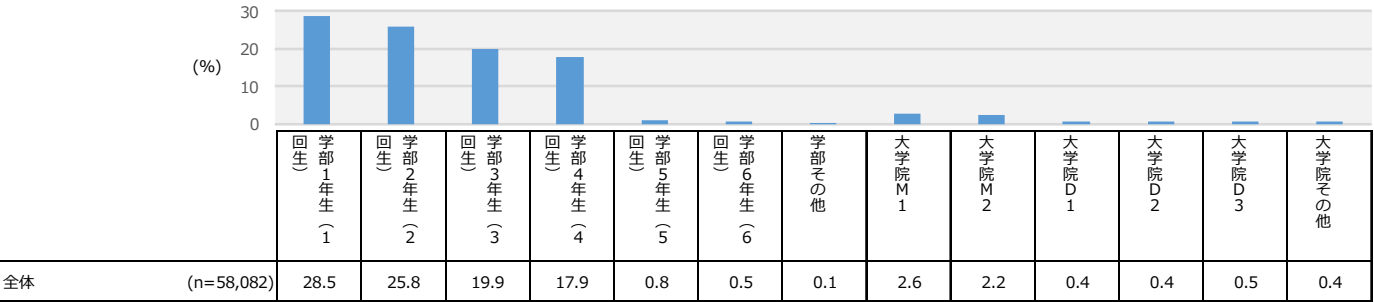
■ 性別

Q3 あなたの性別をお答えください。（1つだけ）



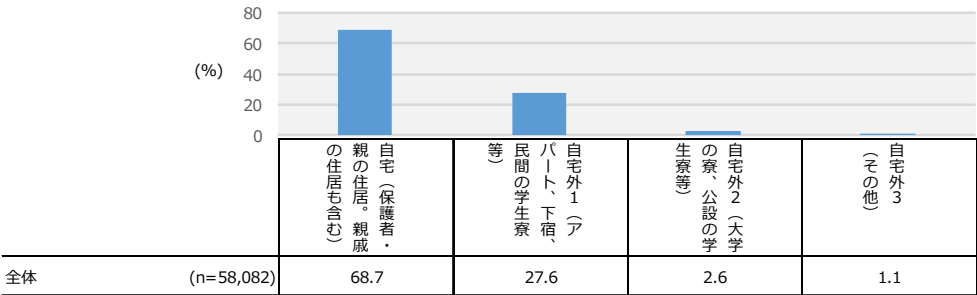
■ 学年

Q4 あなたの学年を教えてください。（1つだけ）



■ 居住形態

Q5 あなたの現在のお住まいはどちらですか。（1つだけ）



1章：経済面への影響

- **国や大学等から受けた支援の種類**

「日本学生支援機構の貸与型奨学金」の給付を受けている学生が最も多い。

- **国や大学等から支援を受けていない理由**

支援を受ける「必要ないため」と考えている学生が最も多い。

- **令和2年度の収入変化**

前年度に比べて収入が減った学生は学部生・大学院生合わせた全体で40%を超えている。

- **令和2年度の収入が減った原因**

収入が減った原因は、「アルバイトの日数、時間が減った」が最も多い。

- **収入減の切り抜け方法**

収入減の切り抜け方法は、「預貯金の切り崩し」「生活費を切り詰めて節約して対応」が多い。

- **令和3年度の収入変化**

前年度に比べて収入が減った学生は学部生・大学院生合わせた全体で25%だった。

- **令和3年度の収入が減った原因**

収入が減った原因は、「アルバイトの日数、時間が減った」が最も多い。

- **アルバイトの業種**

アルバイトの業種は、「飲食業」「小売業」が多い。

コメント

令和2年度、令和3年度とも、前年度と比べて、アルバイトをやめた、時間が減ったために、収入が減った学生が一定程度いる。収入の減った学生の多くが、国や大学からの支援ではなく、預貯金の切り崩しや、生活費を切り詰めることで学生生活を維持していることがうかがえる。

受けた支援の種類

◆ 国や大学等から受けた支援の種類は、「日本学生支援機構の貸与型奨学金」が最も多い。

【全体の傾向】

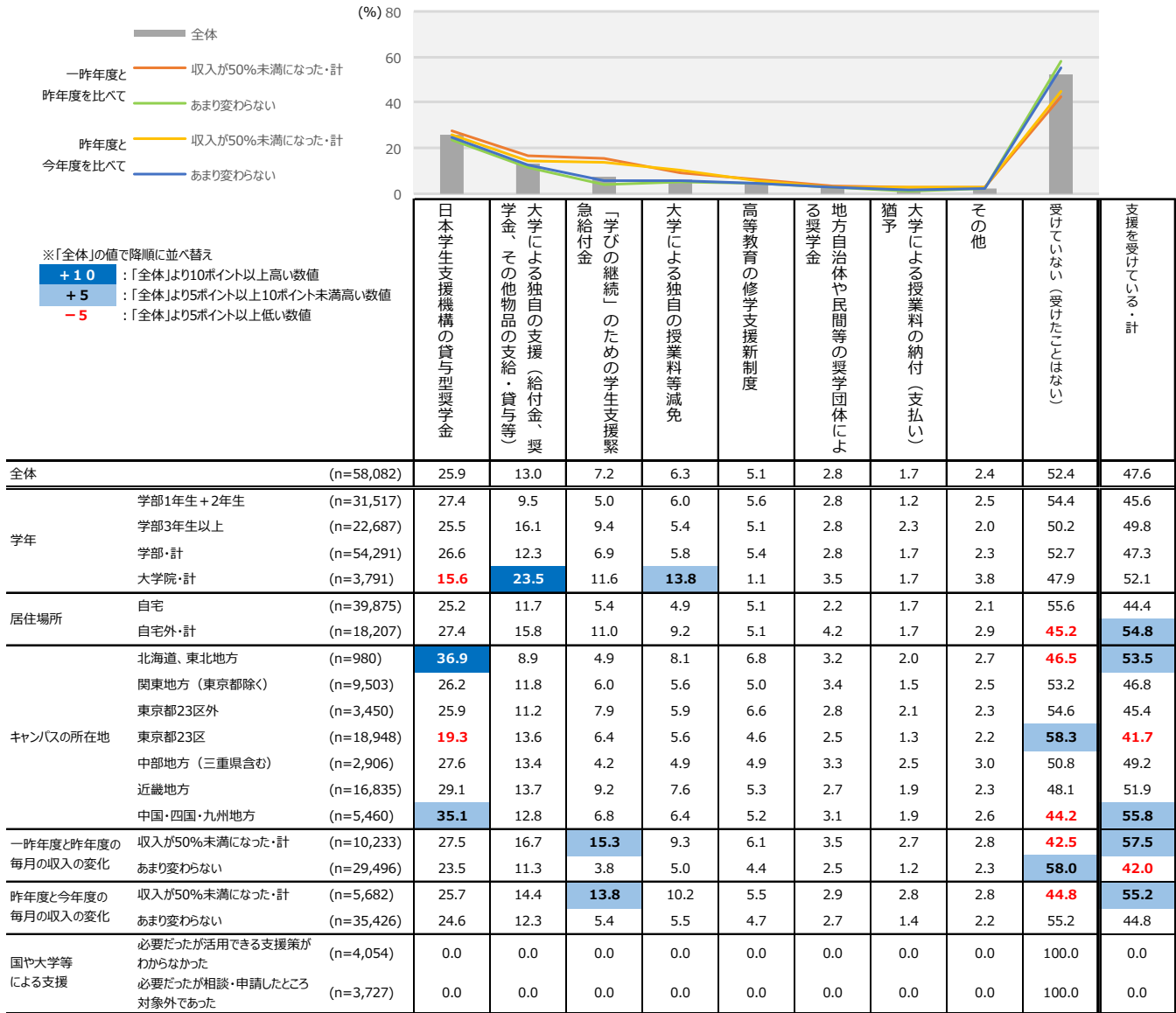
- 国や大学等から受けた支援の種類は、「日本学生支援機構の貸与型奨学金」が25.9%で最も多い。次いで「大学による独自の支援（給付金、奨学金、その他物品の支給・貸与等）」が13.0%で多い。何らかの支援を受けた「支援を受けている・計」は47.6%となっている。

【個別の傾向】

- 学年別にみると、[大学院・計]では、「大学による独自の支援（給付金、奨学金、その他物品の支給・貸与等）」が23.5%で最も多い。「日本学生支援機構の貸与型奨学金」は15.6%で、学部生に比べて低い。
- 居住場所別にみると、[自宅外・計]は、「支援を受けている・計」が54.8%で、[自宅] に比べて高い。
- キャンパスの所在地別にみると、[北海道、東北地方]と[中国・四国・九州地方]は、「日本学生支援機構の貸与型奨学金」受給学生が他の地域より多く、[東京都23区]は、他の地域より少ないという特徴がある。
- 前年度と比べた収入の変化別では、昨年度、一昨年度とも、[収入が50%未満になった・計]が、『『学びの継続』のための学生支援緊急給付金』を多く受けている。

■ 受けた支援の種類（複数回答）

Q 6 昨年度（令和2年度）から今年度（令和3年度）にかけて国や大学等による以下の支援を受けましたか。（複数選択可）



支援を受けていない理由

◆ 国や大学等から支援を受けていない理由は、「必要ないため」が最も多い。

【全体の傾向】

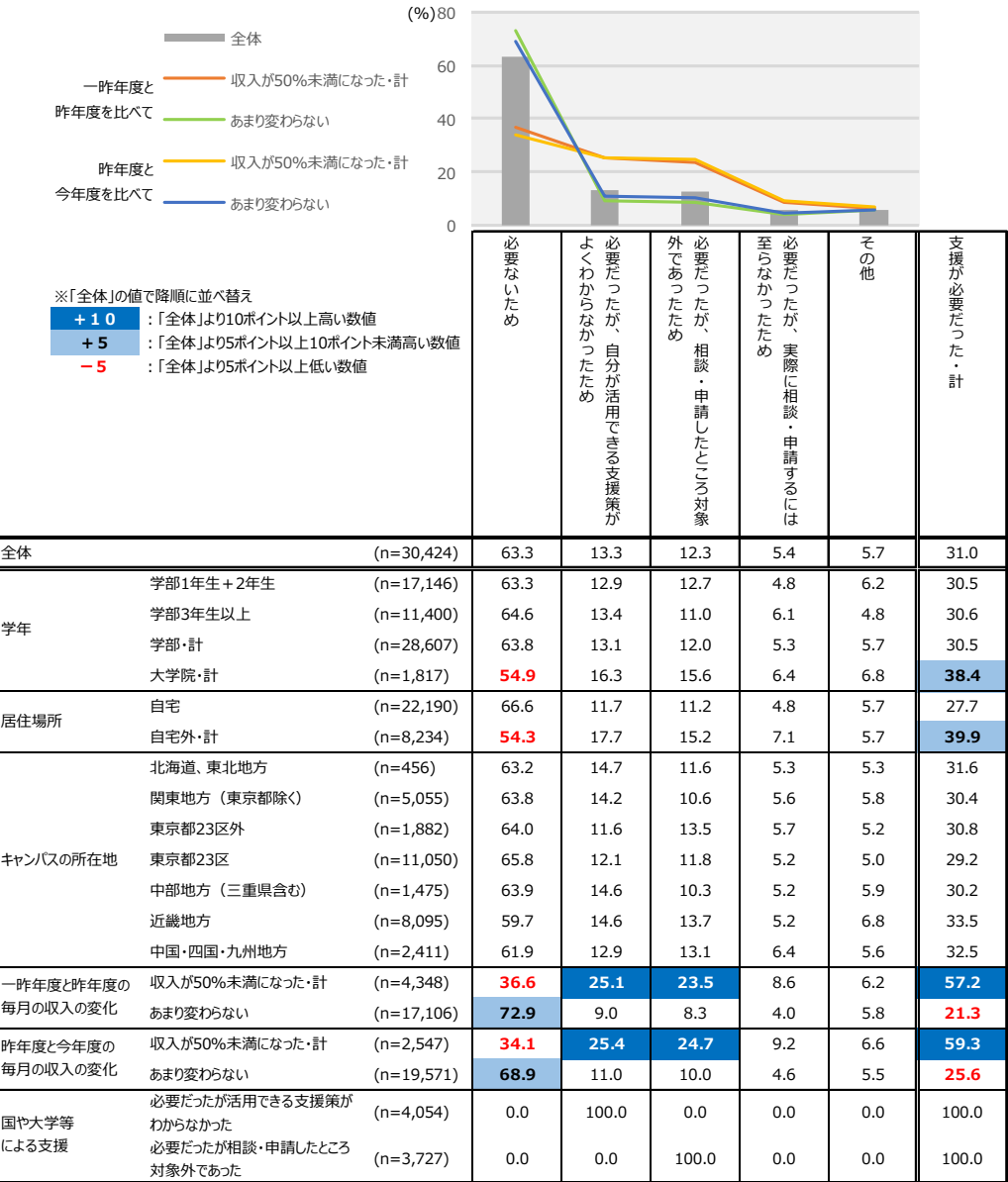
- 国や大学等から支援を受けていない理由は、「必要ないため」が63.3%で最も高い。次いで「必要だったが、自分が活用できる支援策がわからなかったため」が13.3%、「必要だったが、相談・申請したところ対象外であったため」が12.3%で比較的高くなっている。支援が必要でありながら支援を受けることができていない「支援が必要だった・計」は31.0%となっている。

【個別の傾向】

- 学年別にみると、[大学院・計]では、「必要ないため」が54.9%で、学部生に比べて少ない。
- 居住場所別にみると、[自宅外・計]では、「必要ないため」が54.3%で、[自宅]に比べて少ない。
- 前年度と比べた収入の変化別では、前年度、一昨年度とも、[収入が50%未満になった・計]のほうが、「必要だったが、活用できる支援策がわからなかった」「必要だったが相談・申請したところ対象外だった」との回答が多い。

■ 支援を受けていない理由

Q7 前問で「受けていない（受けたことはない）」と答えた方に伺います。受けていない理由は何ですか。（1つだけ）



昨年度（令和2年度）の収入変化

◆ 収入が減った学生は学部生・大学院生合わせた全体で40%を超えている。

【全体の傾向】

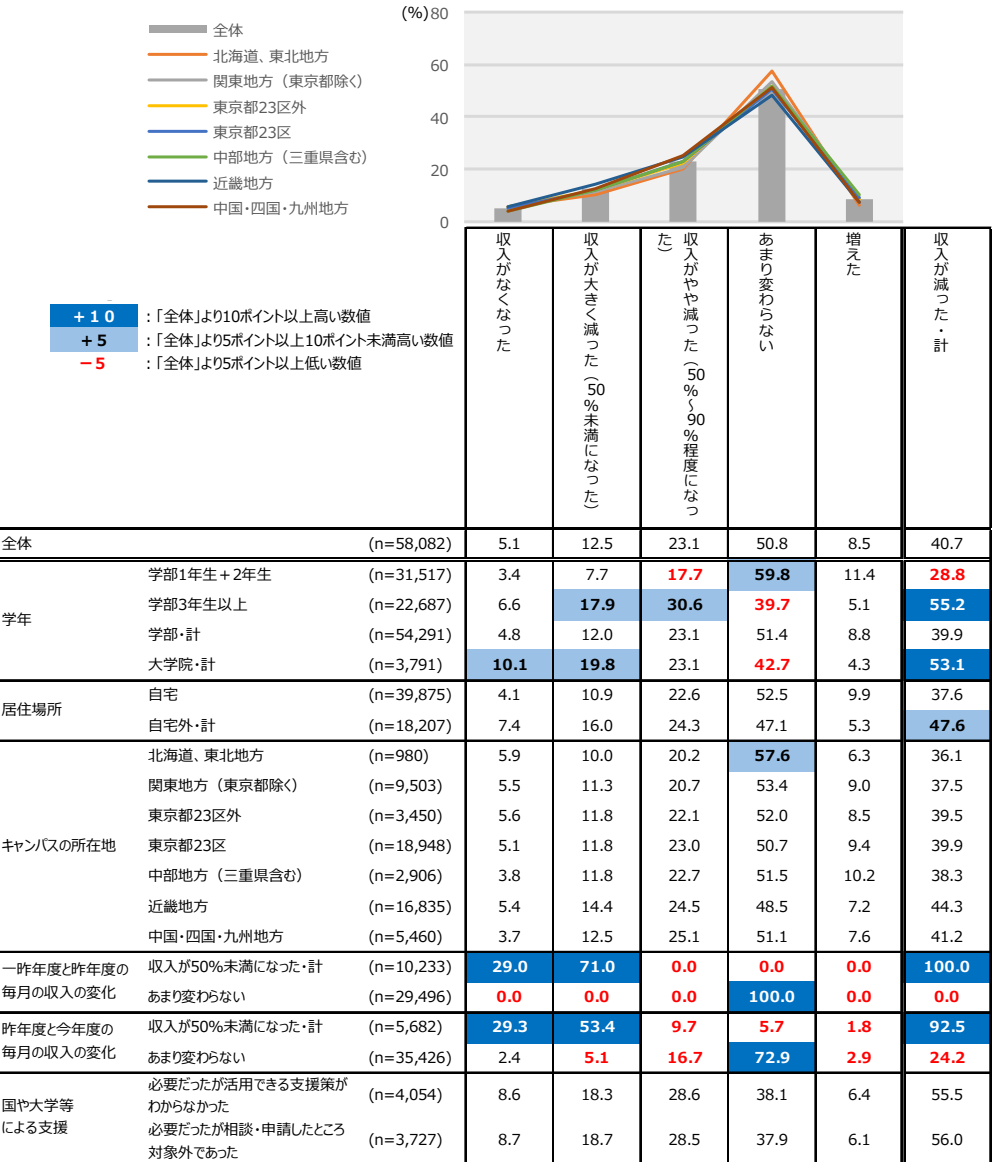
- ・ 昨年度（令和2年度）の収入変化は、「あまり変わらない」が50.8%で最も多い。次いで「収入がやや減った（50%～90%程度になった）」が23.1%とやや高い。「収入が減った・計」は40.7%となっている。

【個別の傾向】

- ・ 学年別にみると、「収入が減った・計」が、[学部3年生以上]では55.2%、[大学院・計]では53.1%と、[学部1年生+2年生]に比べて高くなっている。
- ・ 居住場所別にみると、[自宅外・計]の「収入が減った・計」が47.6%で、[自宅]よりも高い。
- ・ キャンパスの所在地別にみると、[北海道、東北地方]は、「あまり変わらない」が57.6%で、他の地域よりもやや高いが、全体的に大きな違いはみられない。

■ 昨年度（令和2年度）の収入変化

Q8 昨年度（令和2年度）のあなたの毎月の収入（アルバイト、仕送り、こづかい、奨学金等を含む）は、一昨年度（令和元年度・新型コロナウイルス感染拡大前）と比較して変化はありましたか。（1つだけ）



昨年度（令和2年度）収入が減った原因

◆ 収入が減った原因は、「アルバイトの日数、時間が減った」が最も多い。

【全体の傾向】

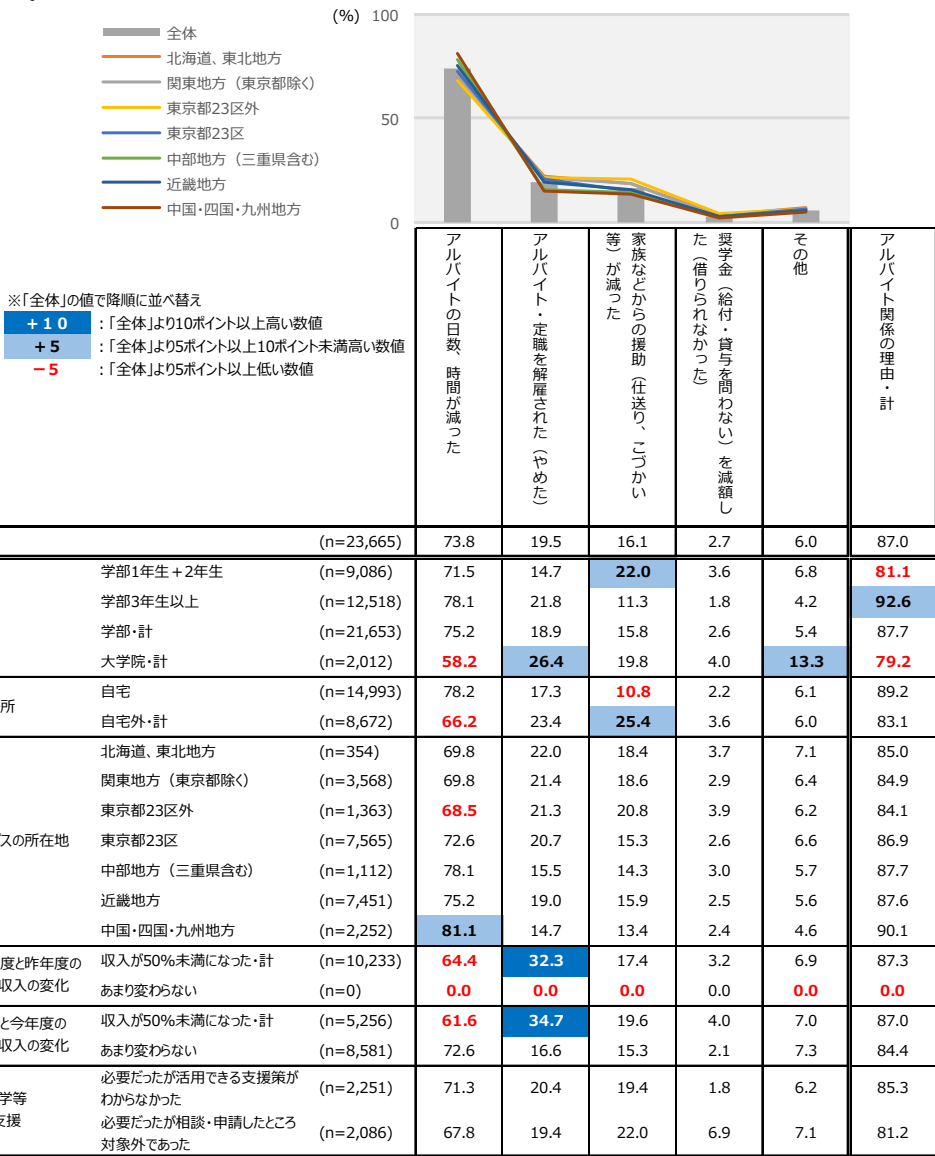
- ・ 昨年度（令和2年度）の収入が減った原因は、「アルバイトの日数、時間が減った」が73.8%で最も多い。次いで「アルバイト・定職を解雇された（やめた）」が19.5%となっている。「アルバイト関係の理由・計」は87.0%に達している。

【個別の傾向】

- ・ 学年別にみると、[学部1年生+2年生]では、「家族などからの援助（仕送り、こづかい等）が減った」が22.0%で、他の学年や大学院生よりやや高い。[学部3年生以上]では、「アルバイト関係の理由・計」が92.6%で他の学年に比べてやや高い。
- ・ 居住場所別にみると、[自宅外・計]では、「家族などからの援助（仕送り、こづかい等）が減った」が25.4%で、[自宅]よりも高い。
- ・ キャンパスの所在地別では、[東京都23区外]は、「アルバイトの日数・時間が減った」が他の地域よりやや低い。

■ 昨年度（令和2年度）収入が減った原因（2つまで）

Q9 前問Q8で「収入がなくなった・減った」と答えた方に伺います。収入が減った主な原因は何ですか。（主なものを2つまで）



収入減の切り抜け方法

◆ 収入減の切り抜け方法は、「預貯金の切り崩し」「生活費を切り詰めて節約して対応」。

【全体の傾向】

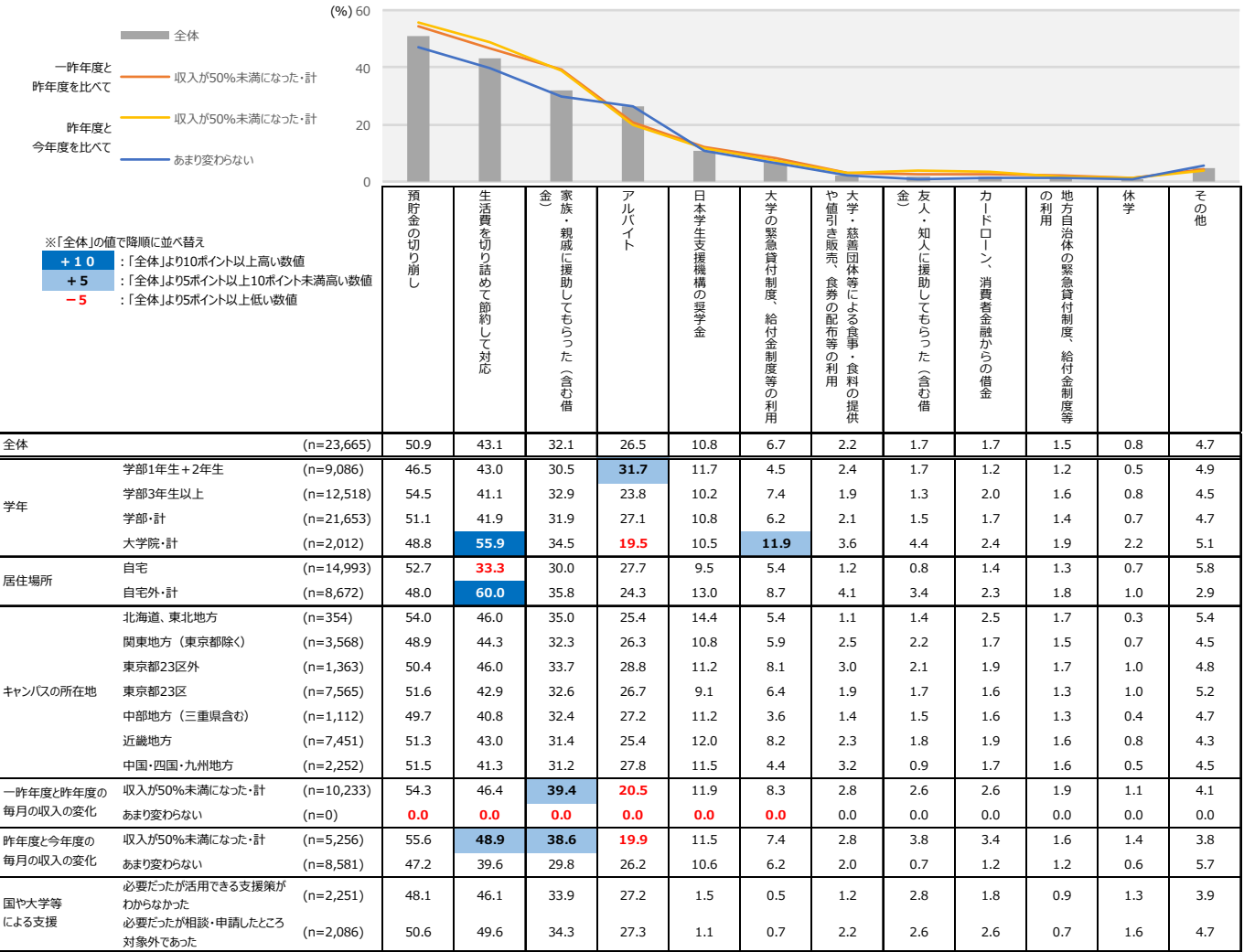
- 収入減の切り抜け方法は、「預貯金の切り崩し」が50.9%で最も多い。次いで「生活費を切り詰めて節約して対応」が43.1%、「家族・親戚に援助してもらった（含む借金）」が32.1%となっている。

【個別の傾向】

- 学年別にみると、[学部1年生＋2年生]では、「アルバイト」が31.7%で、他の学年や大学院生に比べて多い。[大学院・計]では、「生活費を切り詰めて節約して対応」が55.9%で学部生に比べて多い。
- 居住場所別にみると、[自宅外・計]では、「生活費を切り詰めて節約して対応」が60.0%で、[自宅]に比べて多い。
- 前年度と比べた収入の変化別では、昨年度[収入が50%未満になった]学生は、「生活費を切り詰めて節約」「家族・親戚の援助」がやや多く、一昨年度[収入が50%未満になった]学生は「家族・親戚の援助」がやや多かった。

■ 収入減の切り抜け方法（複数回答）

Q10 前々問Q8で「収入がなくなった・減った」と答えた方に伺います。収入減をどのようにして切り抜けましたか？（複数選択可）



今年度（令和3年度）の収入変化

◆ 収入が減った学生は学部生・大学院生合わせた全体で25%であった。

【全体の傾向】

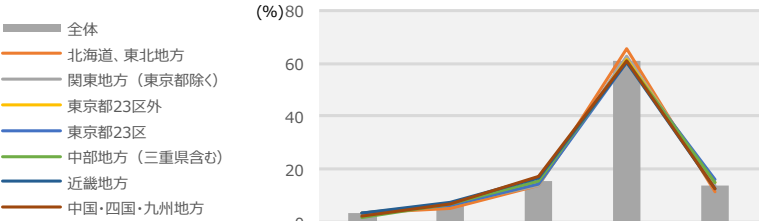
- 今年度（令和3年度）の収入変化は、「あまり変わらない」が61.0%で最も多い。次いで「収入がやや減った（50%～90%程度になった）」が15.2%となっている。「収入が減った・計」は25.0%であった。

【個別の傾向】

- 学年別にみると、「収入が減った・計」が、[学部3年生以上]では32.4%、[大学院・計]では34.7%と、[学部1年生+2年生]に比べて高くなっている。
- 居住場所別にみると、[自宅外・計]の「収入が減った・計」が30.3%で、[自宅]よりも高い。

■ 今年度（令和3年度）の収入変化

Q11 今年度（令和3年度）のあなたの毎月の収入（アルバイト、仕送り、こづかい、奨学金等を含む）は、昨年度（令和2年度）と比べて変化はありますか。（1つだけ）



+10 : 「全体」より10ポイント以上高い数値
+5 : 「全体」より5ポイント以上10ポイント未満高い数値
-5 : 「全体」より5ポイント以上低い数値

			収入がなくなった	収入が大きく減った (50%未満になった)	収入がやや減った (50%～90%程度になった)	あまり変わらない	増えた	収入が減った・計
全体	(n=58,082)		3.1	6.7	15.2	61.0	14.0	25.0
学年	学部1年生+2年生	(n=31,517)	2.0	4.4	12.0	64.2	17.4	18.4
	学部3年生以上	(n=22,687)	4.0	9.0	19.5	57.4	10.1	32.4
	学部・計	(n=54,291)	2.8	6.3	15.1	61.4	14.3	24.3
	大学院・計	(n=3,791)	6.8	11.9	16.1	55.5	9.8	34.7
居住場所	自宅	(n=39,875)	2.6	5.7	14.3	62.1	15.4	22.5
	自宅外・計	(n=18,207)	4.3	8.9	17.1	58.6	11.1	30.3
キャンパスの所在地	北海道・東北地方	(n=980)	3.4	5.2	14.0	65.7	11.7	22.6
	関東地方（東京都除く）	(n=9,503)	3.2	6.6	13.8	62.7	13.7	23.6
	東京都23区外	(n=3,450)	3.2	6.3	14.4	61.5	14.6	23.9
	東京都23区	(n=18,948)	3.2	6.2	14.3	60.6	15.8	23.7
	中部地方（三重県含む）	(n=2,906)	1.9	6.9	15.2	60.9	15.1	24.0
	近畿地方	(n=16,835)	3.4	7.3	16.5	60.2	12.6	27.2
	中国・四国・九州地方	(n=5,460)	2.4	6.9	17.4	60.7	12.6	26.7
一昨年度と昨年度の 毎月の収入の変化	収入が50%未満になった・計	(n=10,233)	14.7	31.2	17.9	26.0	10.1	63.9
	あまり変わらない	(n=29,496)	0.5	0.6	3.3	87.5	8.1	4.4
昨年度と今年度の 毎月の収入の変化	収入が50%未満になった・計	(n=5,682)	31.7	68.3	0.0	0.0	0.0	100.0
	あまり変わらない	(n=35,426)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
国や大学等 による支援	必要だったが活用できる支援策が わからなかった	(n=4,054)	5.4	10.6	19.7	53.1	11.2	35.7
	必要だったが相談・申請したところ 対象外であった	(n=3,727)	5.8	11.1	19.5	52.5	11.2	36.3

今年度（令和3年度）収入が減った原因

◆ 収入が減った原因は、「アルバイトの日数、時間が減った」が最も多い。

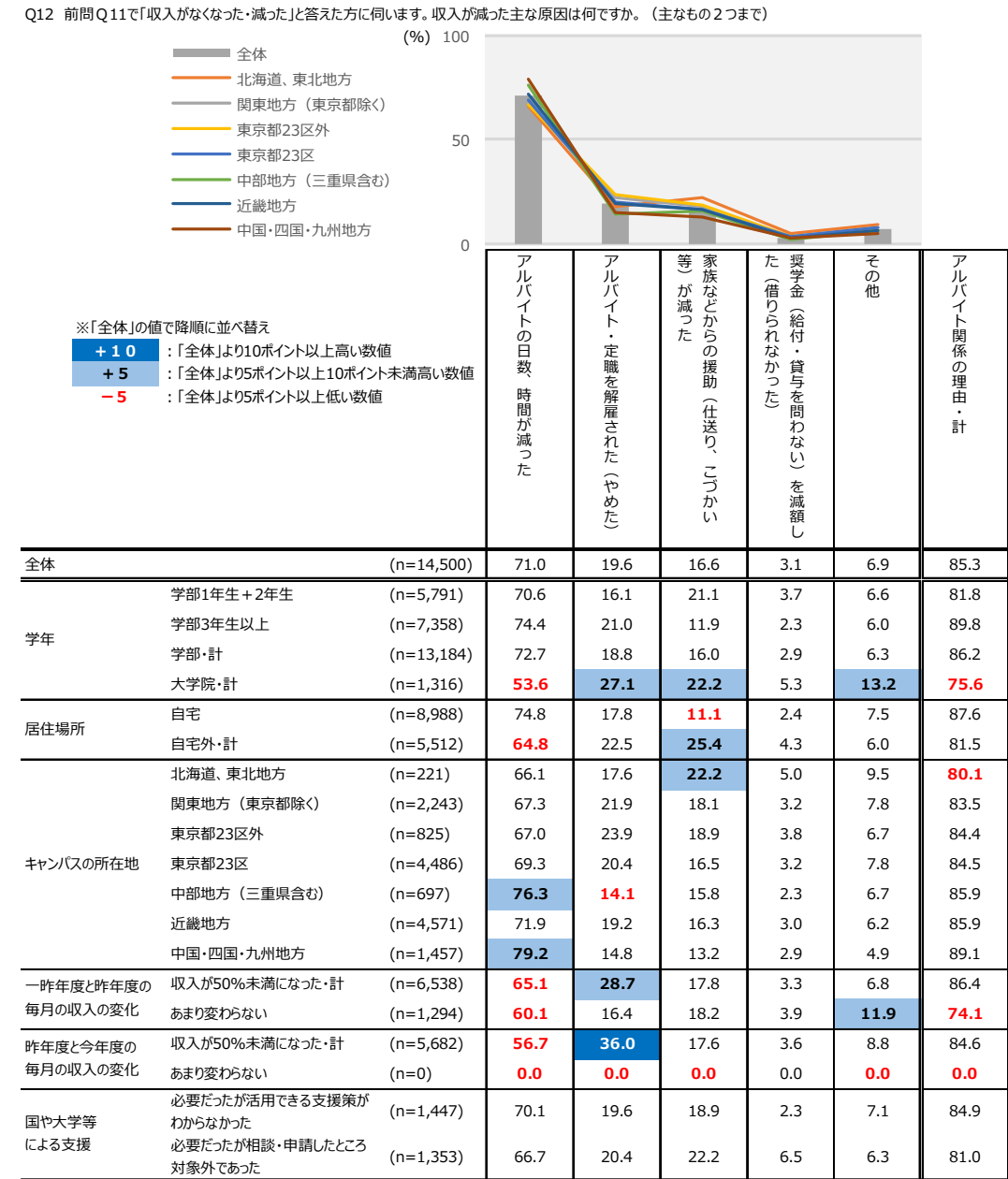
【全体の傾向】

- 今年度（令和3年度）の収入が減った原因は、「アルバイトの日数、時間が減った」が71.0%で最も多い。次いで「アルバイト・定職を解雇された（やめた）」が19.6%となっている。「アルバイト関係の理由・計」は85.3%となっている。

【個別の傾向】

- 居住場所別にみると、[自宅外・計]では、「家族などからの援助（仕送り、こづかい等）が減った」が25.4%で、[自宅]よりも高い。
- キャンパスの所在地別にみると、[北海道、東北地方]では、「家族などからの援助（仕送り、こづかい等）が減った」が22.2%で他の地域よりもやや高い。[中部地方]と[中国・四国・九州地方]では、「アルバイトの日数、時間が減った」が他の地域よりも高くなっている。

■ 今年度（令和3年度）収入が減った原因（2つまで）



アルバイトの業種

◆ アルバイトの業種は、「飲食業」「小売業」が多い。

【全体の傾向】

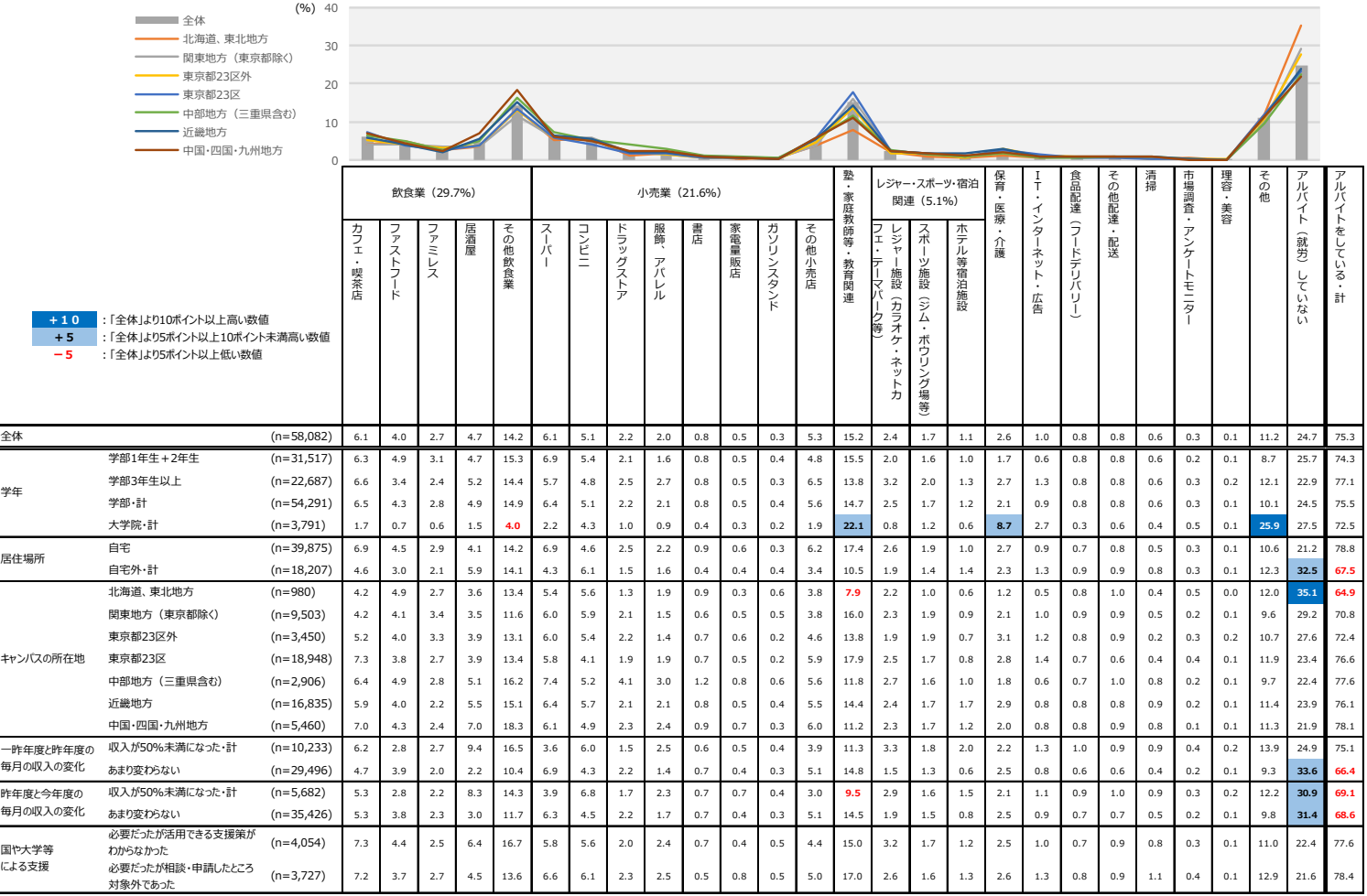
- アルバイトの業種は「飲食業」（「カフェ・喫茶店」～「その他飲食業」）（29.7%）が最も多く、次いで「小売業」（「スーパー」～「その他小売店」）（21.6%）、「塾・家庭教師等・教育関連」（15.2%）と続く。

【個別の傾向】

- 学年別に見ると、[大学院・計]では、「塾・家庭教師等・教育関連」が22.1%、「保育・医療・介護」が8.7%で、学部生に比べて割合が高い。
- 居住場所別では、[自宅外・計]で「アルバイト（就労）していない」が32.5%で、[自宅]よりも高い。
- キャンパスの所在地別にみると、[北海道、東北地方]では、「アルバイト（就労）していない」が35.1%で他の地域よりも高い。

■ アルバイトの業種（複数回答）

Q13 現在、アルバイト（就労含む）をしている方は、その業種を教えてください。（かきもちしている方は、複数選択可）



※複数のアルバイトを掛け持ちしている学生があり、内訳と計とは合わない。

2章：大学生活への影響

● コロナウイルス禍における大学生活での不満点

コロナウイルス禍における大学生活での不満点は、「友人と会って話したり食事したり遊んだりできないこと」「施設設備費・拡充費や学費の減額がないこと」。

● オンライン授業受講に関する改善要望

オンライン授業で改善してほしいことは、「授業は録画して公開してほしい」「レポート提出課題を減らしてほしい」。

● 課外活動参加有無

課外活動に参加している学生は、全体の43.5%で半数を下回った。

● 課外活動量の変化

課外活動に参加している学生の70%以上の学生が「課外活動が減った」と回答。

● 課外活動への加入や活動の際の不安

課外活動への加入や活動での不安や困りごとは、「加入の時機を逸してしまったこと」「毎年実施している行事・活動を中止せざるを得ないこと」「コロナウイルス感染のリスクがあること」。

● オンラインを活用した社会活動、課外活動の展開・参加

新たにオンラインを活用した社会活動、課外活動の展開・参加したのは5%未満。活動の内容は、「海外の学生との国際交流」が最多。

コメント

コロナウイルス禍で、友人と共に学生生活を楽しく過ごすことができないことや、オンライン授業により負担が増加していることに不満を持っている学生が多い。実際に、課外活動へ加入できない学生や、思うような活動ができていないことで、友人との時間が減少していることがうかがえる。

新型コロナウイルス禍における大学生活での不満点

◆ コロナウイルス禍における大学生活での不満点は、「友人と会って話したり食事したり遊んだりできないこと」「施設設備費・拡充費や学費の減額がないこと」。

【全体の傾向】

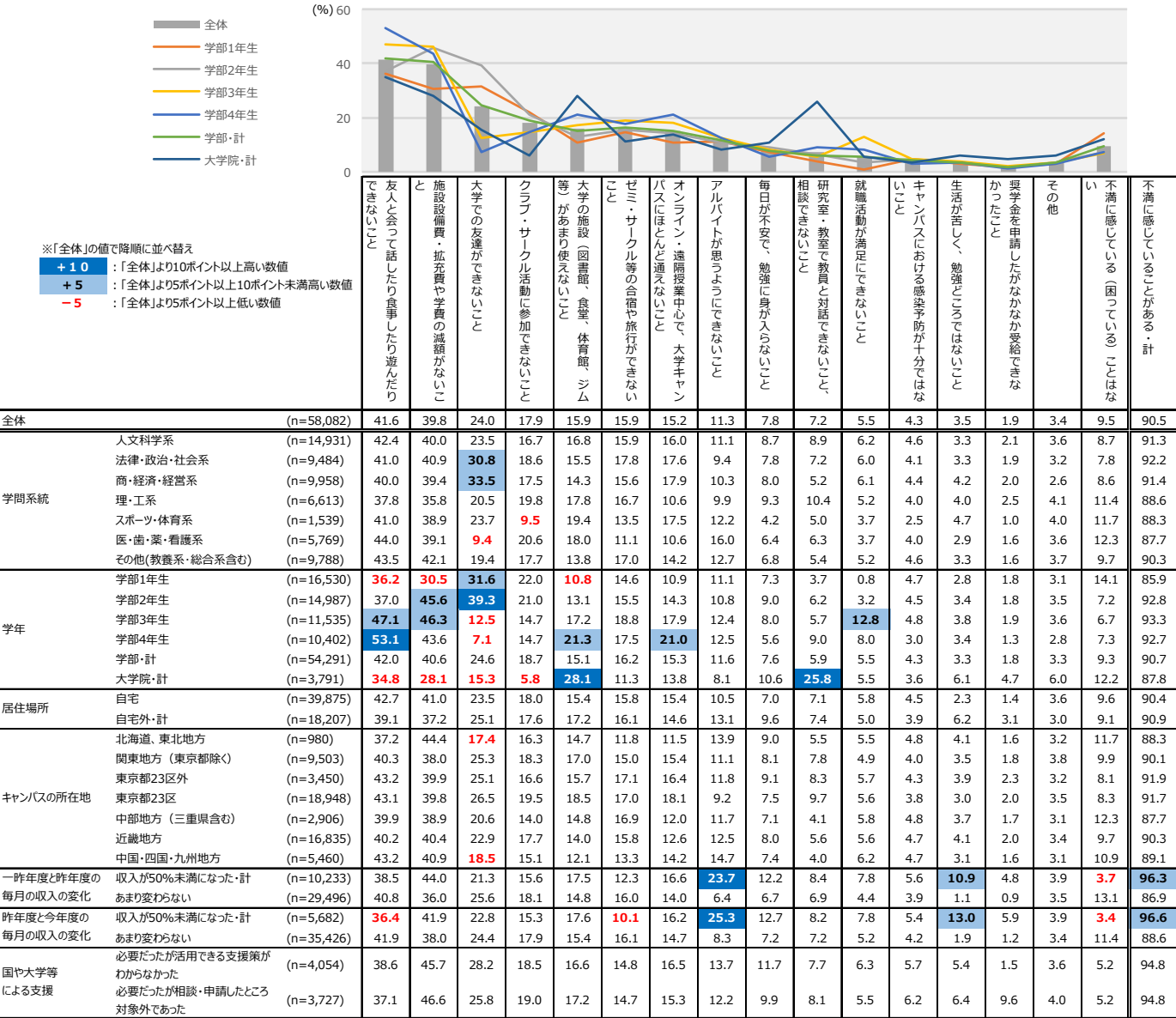
- ・ コロナウイルス禍の大学生活で不満に感じていることは、「友人と会って話したり食事したり遊んだりできないこと」が41.6%で最も高い。次いで「施設設備費・拡充費や学費の減額がないこと」が39.8%となっている。

【個別の傾向】

- ・ 学問系統別でみると、[法律・政治・社会系]と[商・経済・経営系]では、「大学での友達ができないこと」が、他に比べてやや高い。
- ・ 学年別にみると、[学部1年生]や[学部2年生]では、「大学での友達ができないこと」が他の学年よりも高く、[学部3年生]や[学部4年生]では、「友人と会って話したり食事したり遊んだりできないこと」が他の学年よりも高い。[大学院・計]では、「大学の施設（図書館、食堂、体育館、ジム等）があまり使えないこと」「研究室・教室で教員と対話できないこと、相談できないこと」が、学部生に比べて高い。

■コロナウイルス禍における大学生活での不満点（3つまで）

Q14 コロナウイルス禍の大学生活で不満に感じている（困っている）ことは何ですか。（主なもの3つまで）



オンライン授業受講に関する改善要望

◆ オンライン授業の改善要望は、「授業は録画して公開してほしい」「レポート提出課題を減らしてほしい」。

【全体の傾向】

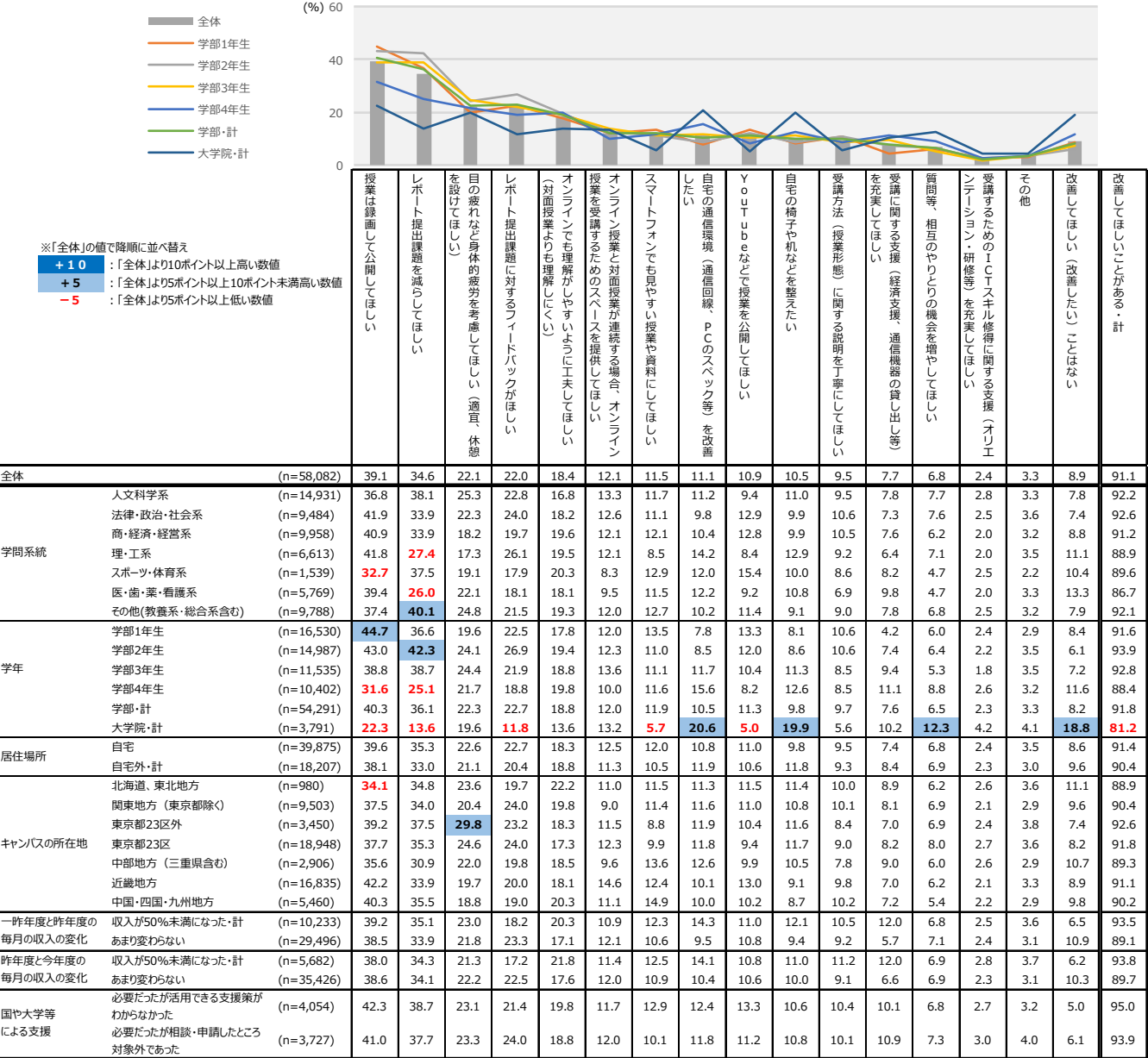
- オンライン授業で改善してほしいことは、「授業は録画して公開してほしい」が39.1%で最も多い。次いで「レポート提出課題を減らしてほしい」が34.6%となっている。「改善してほしいことがある・計」は91.1%であった。

【個別の傾向】

- 学問系統別でみると、[理・工系]と[医・歯・薬・看護系]では、「レポート提出課題を減らしてほしい」が、他に比べて低く、[スポーツ・体育系]で、「授業は録画して公開してほしい」が他に比べてやや低い。
- 学年別にみると、[学部1年生]は「授業は録画して公開してほしい」が他の学年よりもやや高く、[学部2年生]は「レポート提出課題を減らしてほしい」が他の学年よりやや高い。また、[大学院・計]で、「質問等、相互のやりとりの機会を増やしてほしい」が、学部生のほぼ倍のスコアとなっている。さらに、[大学院・計]では、自宅での学習環境に関すること（「自宅の通信環境、PCのスペックを改善したい」「自宅の椅子や机などを整えたい」）についても学部生のほぼ倍のスコアとなっていることが目立つ。

■ オンライン授業受講に関する改善要望（3つまで）

Q15 オンライン授業の受講に当たり、改善してほしい（改善したい）ことは何ですか。（主なもの3つまで）



課外活動参加有無

◆ 課外活動に参加している学生は半数を下回った。

【全体の傾向】

- 課外活動に参加している学生は、全体の43.5%で半数を下回った。

【個別の傾向】

- 学部系統別にみると、[スポーツ・体育系]で「参加している」が71.5%と、他より高い。
- キャンパスの所在地別にみると、[北海道、東北地方]では、課外活動に参加している学生は36.5%で、他の地域よりも低くなっている。
- 収入の変化別にみると、昨年度、今年度いずれも、前年度に比べて[収入が50%未満になった・計]では、課外活動に参加している学生が、それぞれ38.5%、36.8%で、収入が[あまり変わらない]学生と比べてやや低い。

■ 課外活動参加有無

Q16 課外活動（クラブ、サークル活動、ボランティア）に参加していますか。（1つだけ）

			参加している	参加していない
全体	(n=58,082)		43.5%	56.5
学部系統	人文科学系	(n=14,931)	43.5	56.5
	法律・政治・社会系	(n=9,484)	46.6	53.4
	商・経済・経営系	(n=9,958)	40.1	59.9
	理・工系	(n=6,613)	41.1	58.9
	スポーツ・体育系	(n=1,539)	71.5	28.5
	医・歯・薬・看護系	(n=5,769)	40.1	59.9
	その他(教養系・総合系含む)	(n=9,788)	43.4	56.6
学年	学部1年生	(n=16,530)	50.6	49.4
	学部2年生	(n=14,987)	44.1	55.9
	学部3年生	(n=11,535)	47.2	52.8
	学部4年生	(n=10,402)	39.7	60.3
	学部・計	(n=54,291)	45.7	54.3
	大学院・計	(n=3,791)	12.7	87.3
居住場所	自宅	(n=39,875)	42.1	57.9
	自宅外・計	(n=18,207)	46.6	53.4
キャンパスの所在地	北海道、東北地方	(n=980)	36.5	63.5
	関東地方（東京都除く）	(n=9,503)	46.8	53.2
	東京都23区外	(n=3,450)	45.4	54.6
	東京都23区	(n=18,948)	43.5	56.5
	中部地方（三重県含む）	(n=2,906)	46.0	54.0
	近畿地方	(n=16,835)	41.8	58.2
	中国・四国・九州地方	(n=5,460)	42.6	57.4
一昨年度と昨年度の 毎月の収入の変化	収入が50%未満になった・計	(n=10,233)	38.5	61.5
	あまり変わらない	(n=29,496)	44.0	56.0
昨年度と今年度の 毎月の収入の変化	収入が50%未満になった・計	(n=5,682)	36.8	63.2
	あまり変わらない	(n=35,426)	43.1	56.9
国や大学等 による支援	必要だったが活用できる支援策が わからなかった	(n=4,054)	41.2	58.8
	必要だったが相談・申請したところ 対象外であった	(n=3,727)	43.7	56.3

課外活動量変化

◆ 全体の70%以上の学生が「課外活動が減った」と回答。

【全体の傾向】

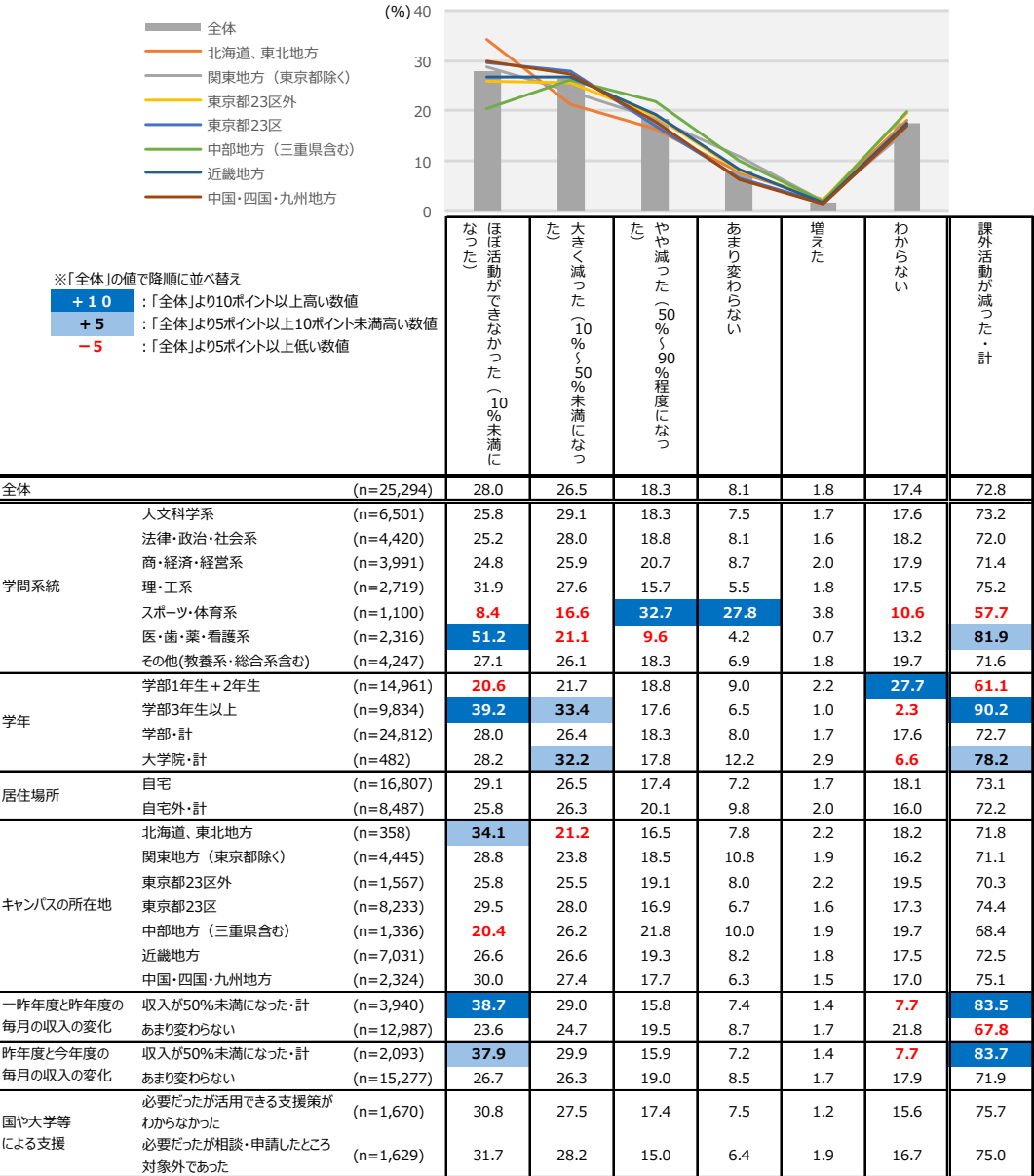
- ・ 課外活動の活動量は、「ほぼ活動ができなかった（10%未満になった）」が28.0%で最も多い。次いで「大きく減った（10%～50%未満になった）」が26.5%であった。「課外活動が減った・計」は72.8%となった。

【個別の傾向】

- ・ 学問系統別にみると、[スポーツ・体育系]では「活動が減った・計」が他に比べて少なく、[医・歯・薬・看護系]は「活動がほぼできなかった（10%未満になった）」が他に比べて多い。
- ・ 学年別にみると、[学部3年生以上]では、「課外活動が減った・計」は90.2%に達している。
- ・ キャンパスの所在地別にみると、[北海道、東北地方]では、「ほぼ活動ができなかった（10%未満になった）」が他の地域よりもやや高い。
- ・ 収入の変化別にみると、昨年度、今年度いずれも、前年度に比べて[収入が50%未満になった・計]では、「課外活動が減った・計」がそれぞれ83.5%、83.7%で、収入が[あまり変わらない]学生と比べて高い。

■ 課外活動量変化

Q17 課外活動(クラブ、サークル活動、ボランティア)に参加している方に伺います。令和2～3年度における課外活動の実施について新型コロナウイルス感染拡大前と比較して変化はありますか。(1つだけ)



課外活動への加入や活動の際の不安

◆ 課外活動への加入や活動での不安や困りごとは、「加入の時機を逸してしまったこと」「毎年実施している行事・活動を中止せざるを得ないこと」「コロナウイルス感染のリスクがあること」。

【全体の傾向】

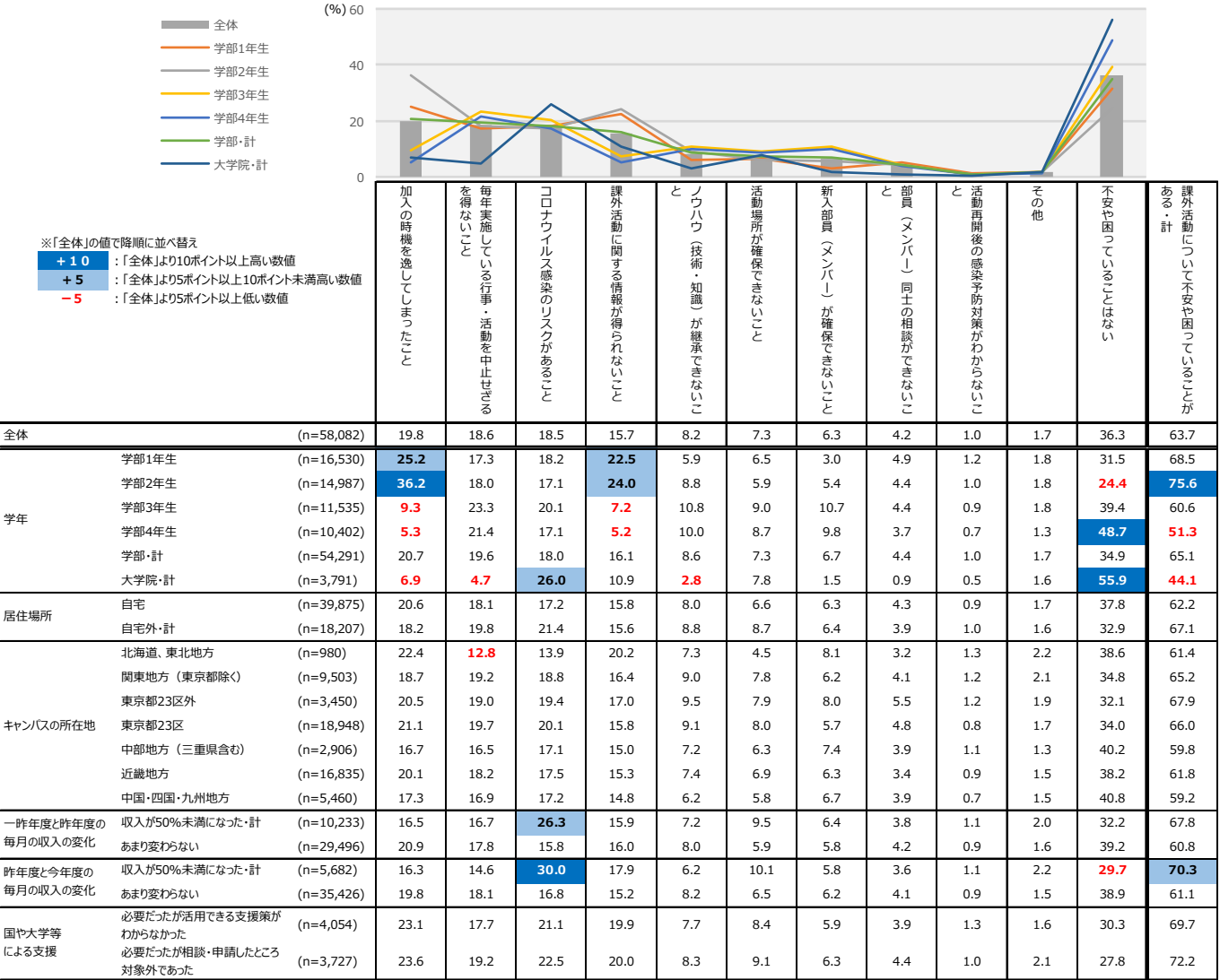
- ・ 課外活動への加入や活動での不安や困りごとは、「加入の時機を逸してしまったこと」が19.8%で最も多い。次いで「毎年実施している行事・活動を中止せざるを得ないこと」が18.6%、「コロナウイルス感染のリスクがあること」が18.5%となっている。

【個別の傾向】

- ・ 学年別にみると、[学部2年生]では、「加入の時機を逸してしまったこと」が他の学年に比べて高く、「課外活動について不安や困っていることがある・計」も他の学年に比べて最も高い。
- ・ 収入の変化別にみると、昨年度、今年度いずれも、前年度に比べて[収入が50%未満になった・計]では、「コロナウイルス感染のリスクがあること」がそれぞれ26.3%、30.0%で、収入が[あまり変わらない]と比べて高い。

■ 課外活動への加入や活動の際の不安（2つまで）

Q18 課外活動（クラブ、サークル活動、ボランティア）への加入や活動で不安なことや困っていることは何ですか。（主なもの2つまで）



オンラインを活用した社会活動、課外活動の展開・参加有無

◆ 新たにオンラインを活用した社会活動、課外活動の展開・参加したのは5%未満。

【全体の傾向】

- ・ コロナウイルス禍で、新たにオンラインを活用した社会活動や、課外活動の展開、または参加したのは4.9%にとどまった。

【個別の傾向】

- ・ 学年別にみると、[大学院・計]では、「展開または参加した」が7.2%で、学部生よりわずかに高い。

■ オンラインを活用した社会活動、課外活動の展開・参加有無

Q19 コロナウイルス禍において、新たにオンラインを活用した社会活動（ボランティア、NPOの活動等）や課外活動（海外の学生団体との交流、国際ディベート大会、模擬国連等）を展開したり、それらに参加しましたか。展開または参加した場合、その内容を簡潔にお書きください。（1つだけ）

			展開または参加した	展開も参加もしていない
全体	(n=58,082)		4.9%	95.1
学年	学部1年生+2年生	(n=31,517)	4.4	95.6
	学部3年生以上	(n=22,687)	5.0	95.0
	学部・計	(n=54,291)	4.7	95.3
	大学院・計	(n=3,791)	7.2	92.8
居住場所	自宅	(n=39,875)	4.9	95.1
	自宅外・計	(n=18,207)	4.8	95.2
キャンパスの所在地	北海道、東北地方	(n=980)	5.6	94.4
	関東地方（東京都除く）	(n=9,503)	4.9	95.1
	東京都23区外	(n=3,450)	5.2	94.8
	東京都23区	(n=18,948)	5.3	94.7
	中部地方（三重県含む）	(n=2,906)	4.1	95.9
	近畿地方	(n=16,835)	4.4	95.6
	中国・四国・九州地方	(n=5,460)	4.9	95.1
一昨年度と昨年度の 毎月の収入の変化	収入が50%未満になった・計	(n=10,233)	4.9	95.1
	あまり変わらない	(n=29,496)	4.6	95.4
昨年度と今年度の 毎月の収入の変化	収入が50%未満になった・計	(n=5,682)	4.8	95.2
	あまり変わらない	(n=35,426)	4.5	95.5
国や大学等 による支援	必要だったが活用できる支援策が わからなかった	(n=4,054)	4.1	95.9
	必要だったが相談・申請したところ 対象外であった	(n=3,727)	4.6	95.4

オンラインを活用した社会活動、課外活動の展開・参加した内容

◆ 新たにオンラインを活用して展開・参加した内容は、「海外の学生との国際交流」が最多。

【全体の傾向】

- ・ オンラインを活用した社会活動、課外活動では、「展開・参加した」学生2,823名のうち、「海外の学生との国際交流」が9.5%で最も多く、次いで「団体／サークル／コミュニティの展開・参加」の7.2%などとなっている。
- ・ 各種ボランティア、外国語の学習、他大学学生や企業との交流など、オンラインを活用した社会活動・課外活動の内容は多岐にわたる。

Q19 オンラインを活用した社会活動、課外活動の展開・参加有無
(「展開・参加した」と回答した学生の、展開・参加した内容の自由記述内容を分類整理)

内容	「展開・参加した」2,823件	
(1) 海外の学生との国際交流	268件	9.5%
(2) 団体／サークル／コミュニティの展開・参加	203件	7.2%
(3) イベントの展開・参加	162件	5.7%
(4) 子どもの学習支援・ボランティア	148件	5.2%
(5) 各種ボランティア活動への参加	136件	4.8%
(6) オンライン留学プログラム	123件	4.4%
(7) 学術大会／国際会議の展開・参加	112件	4.0%
(8) 各種の国際交流／国際交流会の展開・参加	94件	3.3%
(9) インターンシップへの参加	92件	3.2%
(10) セミナー／講座の展開・参加	91件	3.2%
(11) 各種の大会／コンテストの展開・参加	83件	2.9%
(12) 各種の会議／ミーティング	68件	2.4%
(13) 日本語教育・日本語学習支援ボランティア	65件	2.3%
(14) プロジェクト／プログラムの展開・参加	64件	2.3%
(15) 外国語の学習（英会話・語学研修・語学留学など）	59件	2.1%
(16) 東京オリンピック／パラリンピックのボランティア	49件	1.7%
(17) 学習支援ボランティア	47件	1.7%
(18) 学内外での各種交流会の展開・参加	47件	1.7%
(19) ゴミ拾い／清掃ボランティア	42件	1.5%
(20) 学内外でのシンポジウム／フォーラムの展開・参加	41件	1.5%
(21) 食糧支援（子ども食堂・フードドライブなど）	40件	1.4%
(22) 海外研修の展開・参加	37件	1.3%
(23) 勉強会の展開・参加	36件	1.3%
(24) 他大学の学生との交流	33件	1.2%
(25) 障がい者の支援・ボランティア	33件	1.2%
(26) 各種ワークショップへの参加	32件	1.1%
(27) 就職・キャリア支援活動	30件	1.1%
(28) 地域活性／地方創生／町おこしの取り組み	26件	0.9%
(29) 研究発表会への参加	23件	0.8%
(30) 文化祭／学園祭の展開・参加	23件	0.8%
(31) 新入生／下級生の学習・生活支援	19件	0.7%
(32) 募金／寄付／クラウドファンディングの運営・参加	19件	0.7%
(33) 模擬国連会議への参加	19件	0.7%
(34) 各種の講演会の展開・参加	16件	0.6%
(35) 各種説明会への参加	15件	0.5%
(36) 音楽イベント／演奏会の展開・参加	11件	0.4%
(37) 高齢者の支援・ボランティア	11件	0.4%
(38) 各種の取材活動／記事の作成	11件	0.4%
(39) 献血ボランティア／呼びかけ	10件	0.4%
(40) その他	261件	9.2%

3章：精神面への影響

- **コロナウイルス禍の学生生活を経験して悩み、不安・心配に感じていること**

コロナウイルス禍での悩み、不安・心配に感じていることは「就職や将来の進路」「健康（自分の身体、精神のこと）」。

- **不安や悩みについての相談相手**

不安や悩みについての相談相手は「友人」と「家族」。

- **不安や悩みを抱えた学生のための情報発信**

不安や悩みを抱えた学生のために「大学がどのような情報発信をしているのかわからない・知らない」学生が多い。

- **不安や悩みを抱えた学生に対する大学の対応**

不安や悩みを抱えた学生への対応としては、「大学に求めることは特にない」との回答が最も多い。

- **コロナウイルス禍の学生生活を経験し、国や大学に強く望むこと**

国や大学に強く望むことは、「学費の減額」「授業のあり方やキャンパスの利用」「学生に対する経済的な支援」に関する回答が多い。

コメント

コロナウイルス禍で「就職や将来の進路」「健康（自分の身体、精神のこと）」に不安や悩みを抱えているものの、相談できるのは親しい友人や家族のみという学生が多い。大学が不安や悩みを抱えた学生のために情報発信をしていることを知らない、大学に求めることはない、と考える学生が多い。

新型コロナウイルス禍の学生生活を経験して悩み、不安・心配に感じていること

◆ コロナウイルス禍の学生生活を経験して悩み、不安・心配に感じていることは「就職や将来の進路」「健康（自分の身体、精神のこと）」。

【全体の傾向】

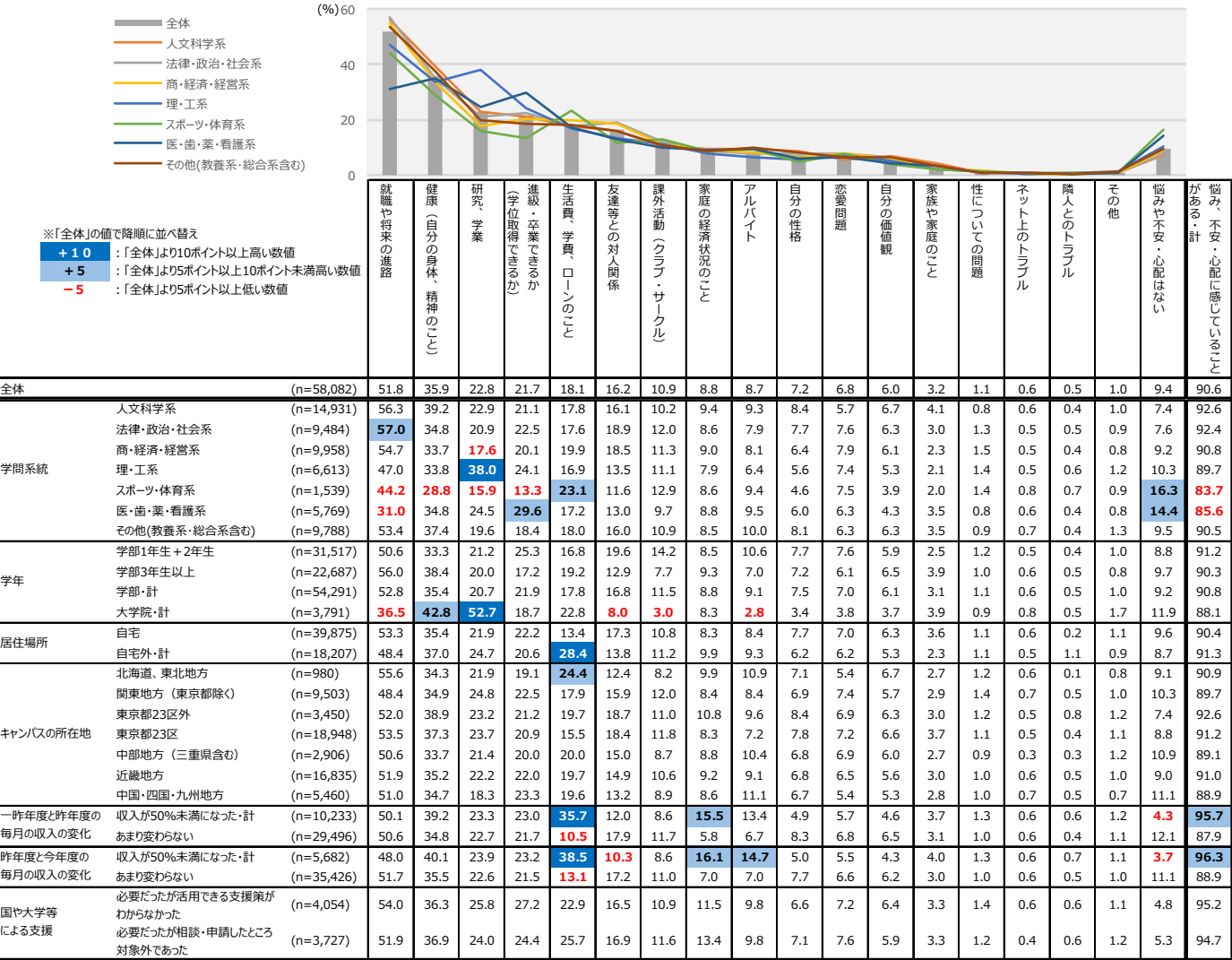
- ・ コロナウイルス禍の学生生活を経験して悩み、不安・心配に感じていることは、「就職や将来の進路」51.8%で最も高い。次いで「健康（自分の身体、精神のこと）」が35.9%となっている。「悩み、不安・心配に感じていることがある・計」は90.6%に達している。

【個別の傾向】

- ・ 学問系統別にみると、[理・工系]では、「研究、学業」が38.0%と、他に比べて高い。一方[スポーツ・体育系]と[医・歯・薬・看護系]では、「悩みや不安・心配はない」との回答が他に比べて多い。
- ・ 居住場所別にみると、[自宅外・計]では、「生活費、学費、ローンのこと」が28.4%と、[自宅]より高い。
- ・ 収入の変化別にみると、前年度に比べて[収入が50%未満になった・計]では、「生活費、学費、ローンのこと」がそれぞれ35.7%、38.5%で、収入が[あまり変わらない]学生と比べて高い。

■コロナウイルス禍の学生生活を経験して悩み、不安・心配に感じていること（3つまで）

Q20 コロナウイルス禍における学生生活を経験して、今のあなたの悩み、不安・心配に感じていることは何ですか。（主なものを3つまで）



不安や悩みについての相談相手

◆ 不安や悩みについての相談相手は「友人」と「家族」。

【全体の傾向】

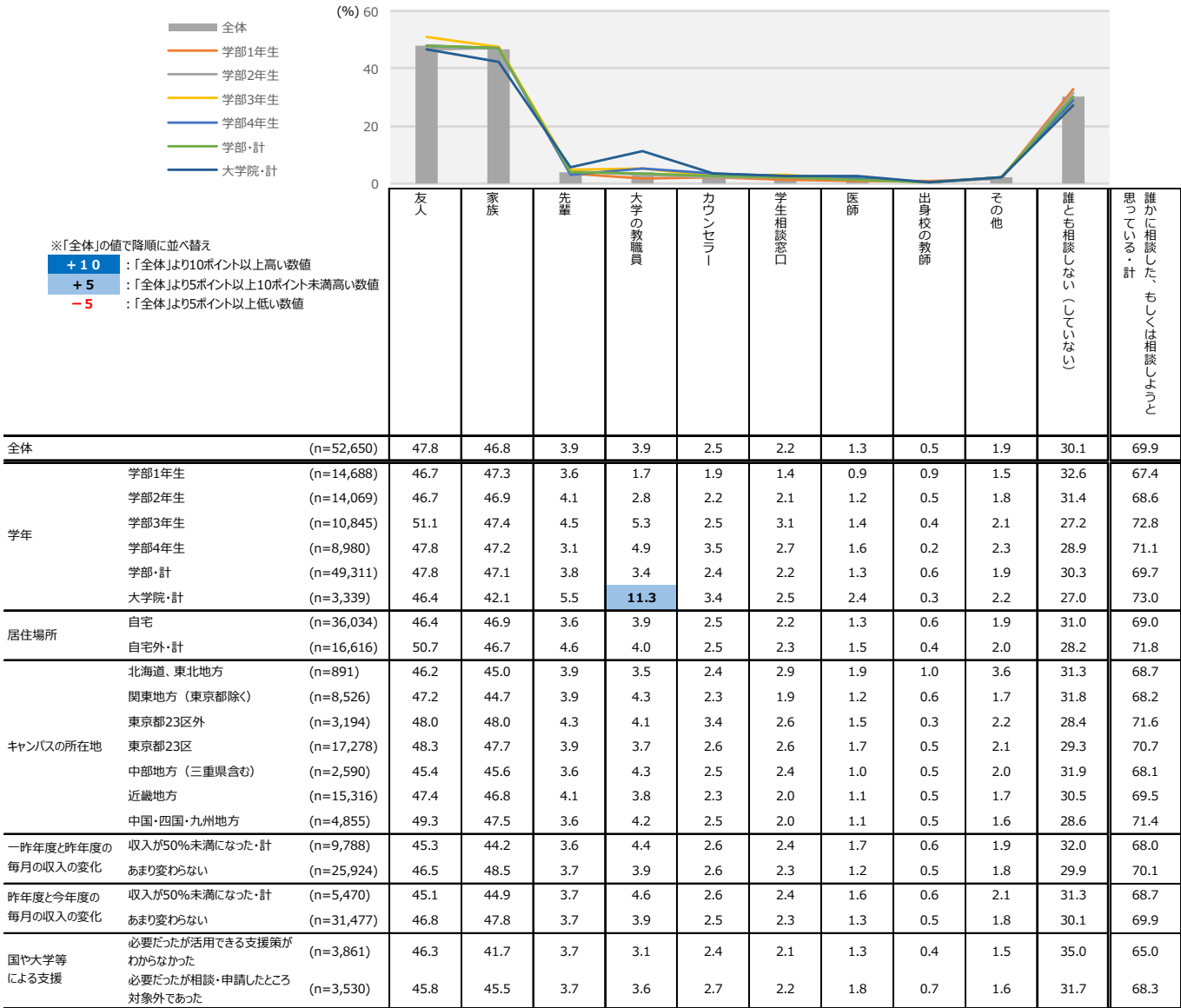
- ・ コロナウイルス禍の学生生活を経験して、不安や悩みについての相談相手は、「友人」が47.8%で最も高い。次いで「家族」が46.8%となっている。「誰とも相談しない（していない）」も30.1%となっている。

【個別の傾向】

- ・ 学年別にみると、[大学院・計]では、「大学の教職員」が11.3%で、学部生より多い。

■ 不安や悩みについての相談相手（2つまで）

Q21 その不安や悩みについて誰に相談しましたか。または相談しようと思っていますか。主な相談相手を選んでください。（主なもの2つまで）



不安や悩みを抱えた学生のための情報発信

◆ 不安や悩みを抱えた学生のために「大学がどのような情報発信をしているのかわからない・知らない」学生が多い。

【全体の傾向】

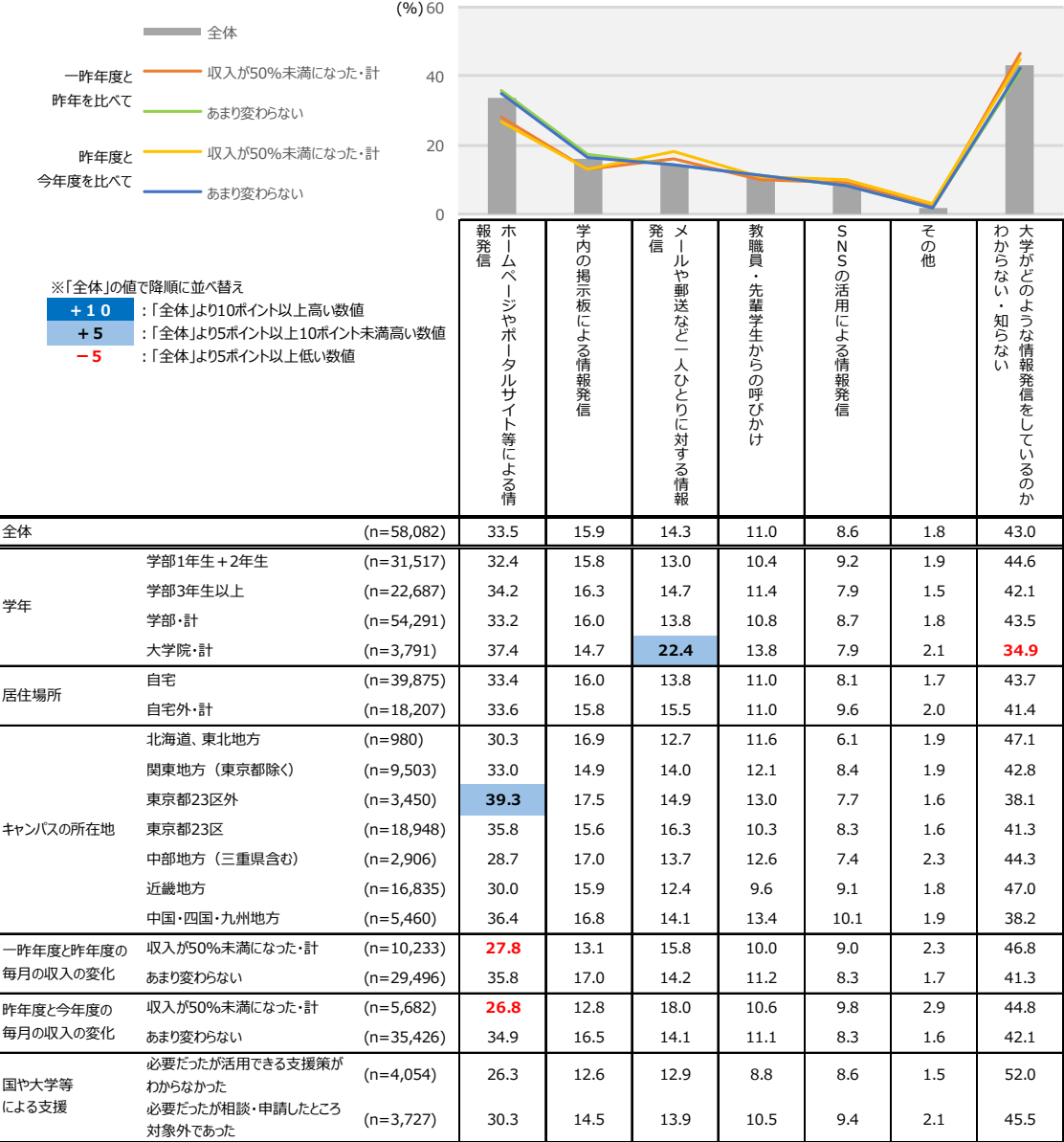
- 不安や悩みを抱えた学生のための情報発信として大学で用いられている方法は、「ホームページやポータルサイト等による情報発信」が33.5%で最も高い。ただし、「大学がどのような情報発信をしているのかわからない・知らない」が43.0%でそれを上回っている。

【個別の傾向】

- 学年別にみると、[大学院・計]では、「メールや郵送など一人ひとりに対する情報発信」が22.4%で、学部生より高い。
- 前年度と比べた収入の変化別では、昨年度、一昨年度とも、[収入が50%未満になった]学生は、大学による「HPやポータルサイト等による情報発信」が、収入が[あまり変わらない]学生と比べて低い。

■ 不安や悩みを抱えた学生のための情報発信（2つまで）

Q22 不安や悩みを抱えた学生のための情報発信として大学ではどのような方法が用いられていますか。（主なもの2つまで）



不安や悩みを抱えた学生に対する大学の対応

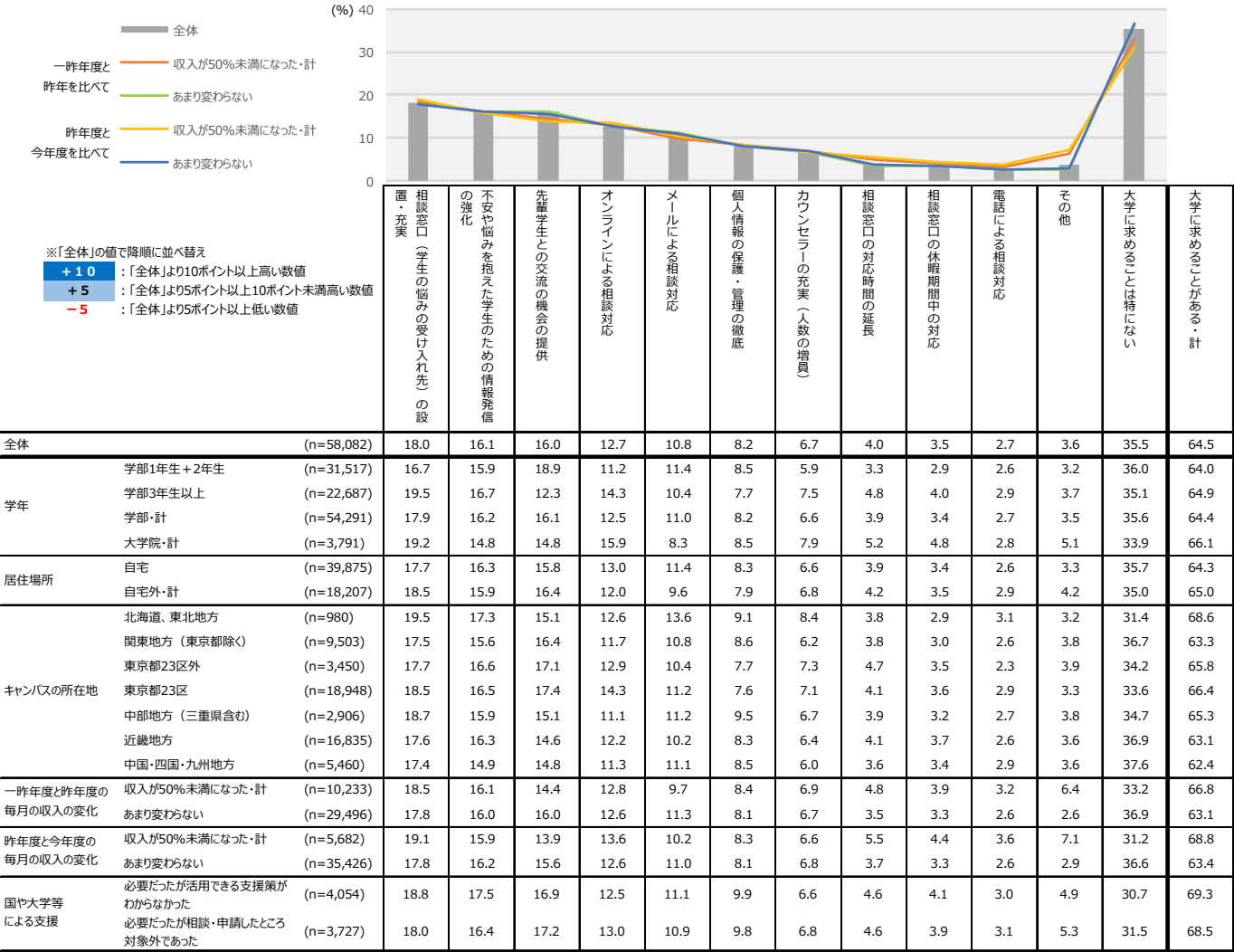
◆ 不安や悩みを抱えた学生への対応として大学に求めることについては、「大学に求めることは特にない」との回答が最も多い。

【全体の傾向】

- ・ コロナウイルス禍における不安や悩みを抱えた学生に対して大学に求めることは、「相談窓口（学生の悩みの受け入れ先）の設置・充実」が18.0%で最も多い。次いで「不安や悩みを抱えた学生のための情報発信の強化」が16.1%、「先輩学生との交流の機会の提供」が16.0%などとなっている。ただし、「大学に求めることは特にない」が35.5%で、それらを上回っている。

■ 不安や悩みを抱えた学生に対する大学の対応（2つまで）

Q23 コロナウイルス禍における不安や悩みを抱えた学生に対して大学に何を求めますか。（主なものを2つまで）



コロナウイルス禍の学生生活を経験し、国や大学に強く望むこと（１）

Q24「コロナウイルス禍の不自由な学生生活を経験し、国や大学に強く望むこと（自由記述）」については、テキストマイニングにて分析を行った。

「分析の手順」

- ①頻出語の抽出：文章を単語や文節に分割（形態素解析）し、頻出語を抽出。
- ②構文解析・意味解析：抽出語の相関関係（共起関係、係り受け関係）を整理。
- ③「①」「②」の結果を集計・図示。

①頻出語の抽出：文章を単語や文節に分割（形態素解析）し、頻出語を抽出。

◆ コロナウイルス禍の不自由な学生生活を経験し、国や大学に強く望むことについて、授業のあり方や経済的な問題に関する単語が頻出している。

- ・ 名詞における頻出単語では、「授業」が最も多く12,526件の回答に出現している。
「オンライン」、「対面」も上位に入っており、授業の形態に関する語が多い。
- ・ 「学費」が11,276件で2位、「給付金」、「施設費」なども上位に入っており、経済的な問題に関する語が多くなっている。

Q24 コロナウイルス禍の不自由な学生生活を経験したことで、国や大学にあなたが強く望む（要望したいと思う）ことは何ですか。
（100字以内で簡潔に記入してください）

頻出名詞（上位50件）

順位	単語	件数
1	授業	12,526
2	学費	11,276
3	オンライン	10,794
4	大学	8,649
5	学生	7,989
6	対面	6,112
7	減額	5,723
8	給付金	3,972
9	支援	3,833
10	コロナウイルス	3,422
11	感染	2,738
12	施設	2,492
13	金	2,225
14	施設費	2,035
15	対策	2,023
16	機会	1,931
17	国	1,929
18	コロナウイルス禍	1,864
19	対応	1,683
20	時間	1,567
21	環境	1,484
22	活動	1,461
23	生活	1,423
24	給付	1,346
25	充実	1,320

順位	単語	件数
26	課題	1,280
27	不安	1,196
28	アルバイト	1,167
29	奨学金	1,103
30	状況	1,099
31	制限	1,086
32	学習	1,085
33	キャンパス	1,019
34	友達	993
35	収入	893
36	情報	891
37	就職	856
38	金銭面	852
39	期間	796
40	設備費	793
41	援助	785
42	サークル	780
43	大学生活	779
44	支給	744
45	設備	712
46	支援金	711
47	費用	695
48	新型	690
49	交流	683
50	制度	671

※「授業」と「講義」、「学費」と「授業料」など明らかな同義語をまとめた上で、各単語が出現する回答件数を集計し、回答件数上位50件の名詞を「頻出名詞」として表示。

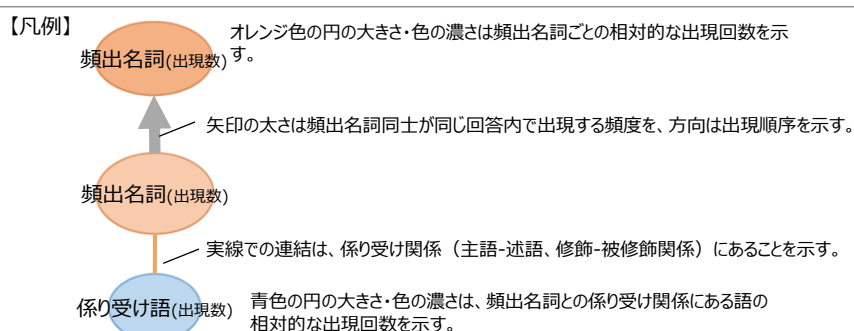
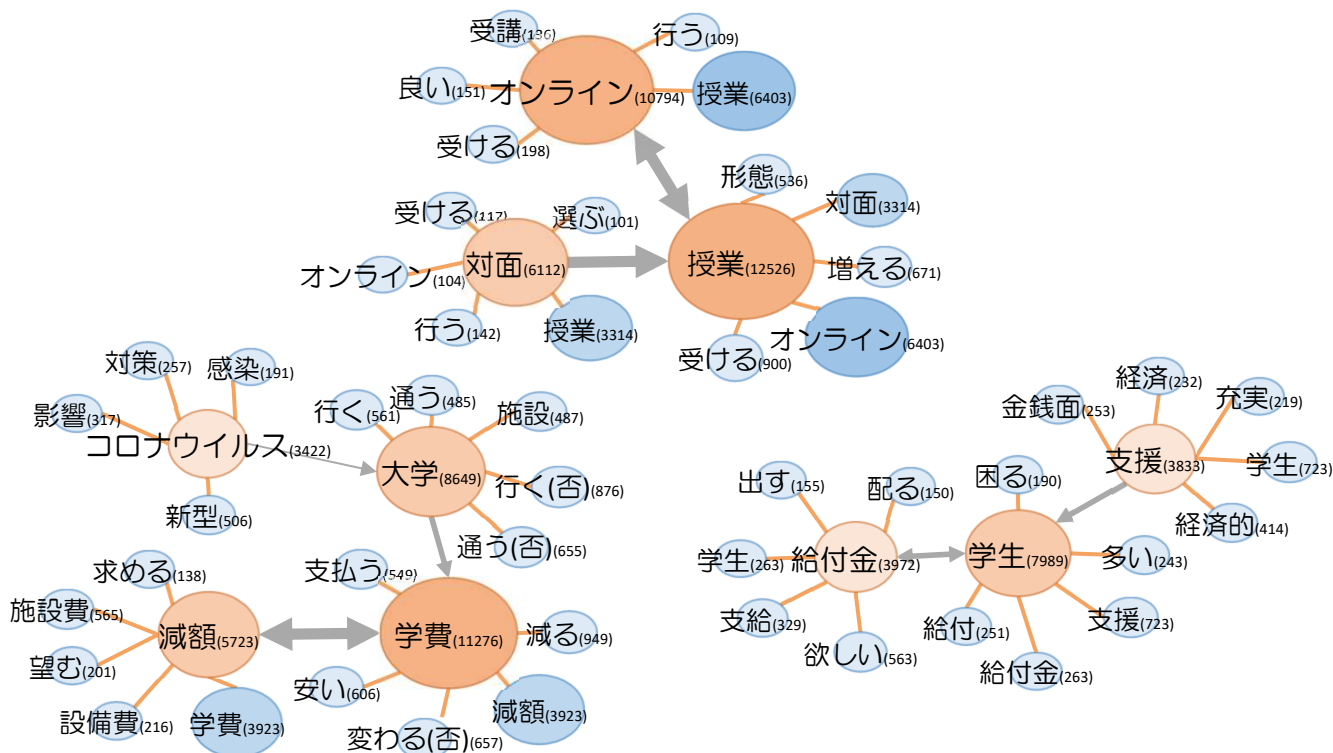
コロナウイルス禍の学生生活を経験し、国や大学に強く望むこと（２）

② 構文解析・意味解析：抽出語の相関関係（共起関係、係り受け関係）を整理。

③ 「①」「②」の結果を集計・図示。

◆ コロナウイルス禍の不自由な学生生活を経験し、国や大学に強く望むこととして、「授業のあり方」や「キャンパスの利用」「経済的支援」に関する回答が多い。

- ・ 頻出名詞上位10語について、頻出名詞同士の関係や、それぞれの頻出名詞と係り受け関係を見ると（下図）、「オンライン授業」と「対面授業」の語が頻出し、それらの授業が「増える」「良い」「選ぶ」の語にかかっており、オンライン授業の増加やその評価、対面授業との選択の可否に関する回答が多いことがわかる。
- ・ 「コロナウイルス」は「大学」という語と同時に出現し、その語が「行く（否）」「通う（否）」にかかっており、コロナウイルス禍でキャンパスに行くことが減っていること、それによる学生生活への影響に関する回答が多いことがわかる。
- ・ 「支援」という語は、「学生」や「給付金」という語と関連が深く、学生を対象とした給付金による経済的な支援に関する回答も多いことがわかる。



委員名簿

学生委員会委員

担当理事	伊藤公平	慶應義塾	塾長
委員長	池谷知明	早稲田大学	学生部長・社会科学総合学術院教授
委員	鳥居伸好	中央大学	副学長(学生総合支援担当) ・学生部長・経済学部教授
	下楠昌哉	同志社	学生支援センター所長・文学部教授
	梶井昌邦	福岡大学	学生部長・経済学部教授
	福武慎太郎	上智学院	学生センター長・総合グローバル学部教授
	松村吉信	関西大学	学生センター所長・化学生命工学部教授
	本郷亮	関西学院	学生支援機構副機構長(学生部長) ・経済学部教授
	田上雅徳	慶應義塾	学生総合センター長・法学部教授
	佐藤和	慶應義塾	就職部長、商学部教授
	西山春文	明治大学	副学長(学務担当)・学生部長・商学部教授
	北條英勝	武蔵野大学	副学長・人間科学部教授
	吉田敦	南山学園	学生部長・理工学部教授
	砂川浩慶	立教学院	学生部長・社会学部教授
	河原典史	立命館	学生部長・文学部教授

(令和4年9月1日現在)

.....

学生委員会小委員会委員

座長	下楠昌哉	同志社	学生支援センター所長・文学部教授
委員	本郷亮	関西学院	学生支援機構副機構長(学生部長) ・経済学部教授
	西山春文	明治大学	副学長(学務担当)・学生部長・商学部教授
	北條英勝	武蔵野大学	副学長・人間科学部教授
	吉田敦	南山学園	学生部長・理工学部教授

(令和4年9月1日現在)

.....

担当事務局：相坂、佐藤（義）、石橋

一般社団法人日本私立大学連盟加盟大学一覧

(123大学 令和4年9月現在 大学名ABC順)

- | | | |
|----------------|------------------|----------------|
| 1. 愛知大学 | 45. 国際武道大学 | 89. 清泉女子大学 |
| 2. 亜細亜大学 | 46. 国際基督教大学 | 90. 聖心女子大学 |
| 3. 青山学院大学 | 47. 駒澤大学 | 91. 仙台白百合女子大学 |
| 4. 跡見学園女子大学 | 48. 甲南大学 | 92. 専修大学 |
| 5. 梅花女子大学 | 49. 久留米大学 | 93. 芝浦工業大学 |
| 6. 文教大学 | 50. 共立女子大学 | 94. 白百合女子大学 |
| 7. 筑紫女学園大学 | 51. 京都産業大学 | 95. 昭和女子大学 |
| 8. 中京大学 | 52. 京都精華大学 | 96. 園田学園女子大学 |
| 9. 中央大学 | 53. 京都橘大学 | 97. 創価大学 |
| 10. 大東文化大学 | 54. 九州産業大学 | 98. 大正大学 |
| 11. 獨協大学 | 55. 松山大学 | 99. 拓殖大学 |
| 12. 獨協医科大学 | 56. 松山東雲女子大学 | 100. 天理大学 |
| 13. 同志社大学 | 57. 明治大学 | 101. 東邦大学 |
| 14. 同志社女子大学 | 58. 明治学院大学 | 102. 東北学院大学 |
| 15. フェリス女学院大学 | 59. 宮城学院女子大学 | 103. 東北公益文科大学 |
| 16. 福岡大学 | 60. 桃山学院大学 | 104. 東海大学 |
| 17. 福岡女学院大学 | 61. 桃山学院教育大学 | 105. 常磐大学 |
| 18. 福岡女学院看護大学 | 62. 武蔵大学 | 106. 東京医療保健大学 |
| 19. 学習院大学 | 63. 武蔵野大学 | 107. 東京情報大学 |
| 20. 学習院女子大学 | 64. 武蔵野美術大学 | 108. 東京女子大学 |
| 21. 白鷗大学 | 65. 名古屋学院大学 | 109. 東京女子医科大学 |
| 22. 阪南大学 | 66. 南山大学 | 110. 東京経済大学 |
| 23. 姫路獨協大学 | 67. 日本大学 | 111. 東京国際大学 |
| 24. 広島女学院大学 | 68. 日本女子大学 | 112. 東京農業大学 |
| 25. 広島修道大学 | 69. ノートルダム清心女子大学 | 113. 東京歯科大学 |
| 26. 法政大学 | 70. 大阪学院大学 | 114. 東洋大学 |
| 27. 石巻専修大学 | 71. 大阪医科薬科大学 | 115. 東洋英和女学院大学 |
| 28. 実践女子大学 | 72. 大阪女学院大学 | 116. 東洋学園大学 |
| 29. 上智大学 | 73. 大谷大学 | 117. 豊田工業大学 |
| 30. 城西大学 | 74. 追手門学院大学 | 118. 津田塾大学 |
| 31. 城西国際大学 | 75. 立教大学 | 119. 和光大学 |
| 32. 順天堂大学 | 76. 立正大学 | 120. 早稲田大学 |
| 33. 金沢星稜大学 | 77. 立命館大学 | 121. 山梨英和大学 |
| 34. 関西大学 | 78. 立命館アジア太平洋大学 | 122. 四日市大学 |
| 35. 関西学院大学 | 79. 龍谷大学 | 123. 四日市看護医療大学 |
| 36. 関東学園大学 | 80. 流通科学大学 | |
| 37. 関東学院大学 | 81. 流通経済大学 | |
| 38. 慶應義塾大学 | 82. 西武文理大学 | |
| 39. 恵泉女学園大学 | 83. 聖学院大学 | |
| 40. 敬和学園大学 | 84. 成城大学 | |
| 41. 神戸女学院大学 | 85. 聖カトリナ大学 | |
| 42. 神戸海星女子学院大学 | 86. 成蹊大学 | |
| 43. 皇學館大学 | 87. 西南学院大学 | |
| 44. 國學院大学 | 88. 聖路加国際大学 | |

新型コロナウイルス禍の影響に関する学生アンケート報告書（概要版）

2022（令和4）年9月 発行

編 集 者 学生委員会小委員会

座 長 下 楠 昌 哉

発 行 者 学生委員会

担当理事 伊 藤 公 平

委 員 長 池 谷 知 明

発 行 所 一般社団法人日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

（私学会館別館7階）

電話：03-3262-3603（教学支援課）

調 査 協 力 株式会社進研アド

〒163-0414 東京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井ビルディング

電話：03-6372-0260



一般社団法人日本私立大学連盟